

第2章 交通安全意識等に関する国民アンケート調査

本章では、国民の交通安全意識及び交通安全対策に関する要望を明らかにするために実施した国民アンケート調査の結果を概観・分析した。

第1項 調査概要

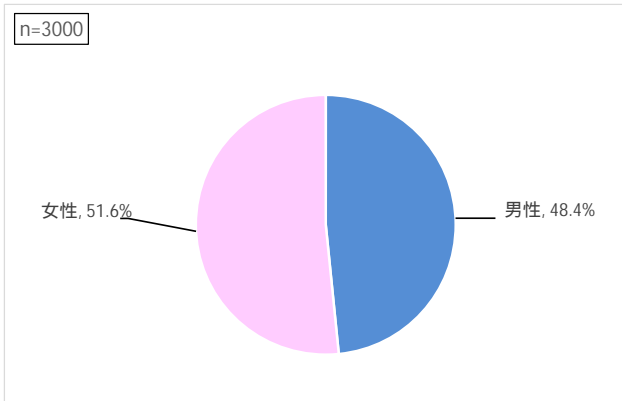
- 目的：国民の交通安全意識及び交通安全対策に関する要望を明らかにする。
- 調査対象：平成31年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口（都道府県別）に基づき、以下のよ
うな区分でサンプル数の割り付けを行い、インターネット調査会社が有するモニタ
ーから、各区分における該当数の回答を回収した。

性別	住所地域	年齢階層					計
		16歳 ～24歳	25歳 ～39歳	40歳 ～64歳	65歳 ～74歳	75歳 以上	
男性	北海道	6	11	24	10	8	59
	東北	11	18	40	17	14	101
	関東	59	112	207	72	59	509
	中部	29	49	97	38	33	247
	近畿	31	50	100	39	34	253
	中国	10	16	32	14	12	83
	四国	5	8	16	8	6	43
	九州・沖縄	19	31	61	26	21	158
	計	170	295	577	224	187	1,453
女性	北海道	6	11	25	12	14	68
	東北	10	18	39	21	21	109
	関東	56	104	196	77	86	519
	中部	28	45	94	41	50	257
	近畿	30	49	103	44	51	277
	中国	9	15	32	15	19	91
	四国	5	7	17	8	10	48
	九州・沖縄	18	32	64	29	36	178
	計	162	281	570	247	287	1,547

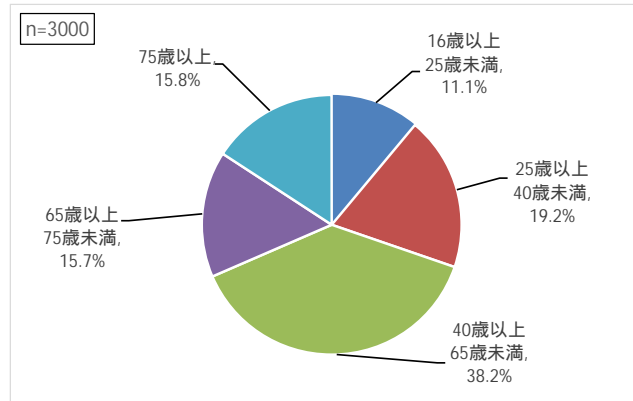
- 調査時期：2019年11月1日～11月8日

■ 回答者属性

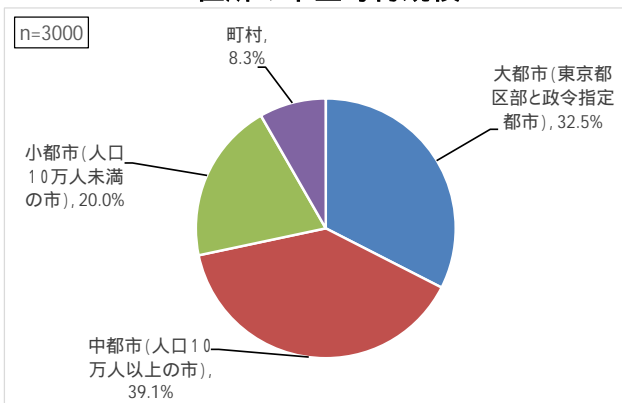
性別



年齢層



住所の市区町村規模



第2項 結果概要

(1) 普段の移動や免許に関する考え

- ┆ 運転免許を保有している者及び取得予定のある者 (n=2294) のうち、返納意向のない者の割合は 18.9%、返納意向のある者の割合は 59.3%であった (図表 2-1)。
- ┆ 返納意向を年齢階層別にクロス集計すると、返納意向のある者の割合は、年齢が進むに従い増加している (図表 2-3)。
- ┆ 免許返納後の代替の移動手段は、「バス、電車といった公共交通機関」が 75.4%と最も多く、「徒歩」の 57.9%、「タクシー」の 39.2%、「自転車(電動を含む)」の 36.0%と続く(「いずれ返納する予定である(返納を予定している年齢がある)」「いずれ返納するつもりだが、今のところ予定は立てていない」者 (n=1360) のうちの割合)(図表 2-8)。
- ┆ 返納意向のない者の免許を自主返納しない理由は、「日常生活での移動に支障が生じて、不便だから」が 44.0%で最も多く、「運転することが楽しいから」の 25.3%、「災害や家族の急病等緊急時のために念のために所持しておきたいから」の 25.3%、「高齢になっても支障なく運転できるから」の 20.5%と続く(「返納するつもりはない」者 (n=434) のうちの割合)(図表 2-10)。

(2) 交通事故に関する認識

- ┆ 日常生活で交通事故の被害者になる可能性について不安を感じている者の割合は 65.5%、不安に感じていない者の割合は 34.6%であった (図表 2-11)。
- ┆ 加害者になる可能性について不安を感じている者の割合は 59.5%、不安に感じていない者の割合は 40.6%であった (図表 2-12)。
- ┆ 道路交通の情勢がどのような方向に向かっているか、人とその状態別に見ると、幼児、小学生、中学生、高校生、若者に比べ、高齢者に関わる道路交通の情勢について「危険になっている」と回答した者の割合が大きい (図表 2-14)。
- ┆ 道路交通の情勢がどのような方向に向かっているか、場所別に見ると、「危険になっている」と捉えられているのは、「交通量が多い幹線道路」が 35.3%と最も多く、「住宅地内の生活道路」の 24.3%、「高速道路」の 24.1%と続く (図表 2-15)。
- ┆ 今後5年ほどを見据えた全体的な目指すべき方向性は、「事故発生件数」「死者数」「重傷者数」「負傷者数」とも、「ゼロとすべきである」または「大幅に減少させるべきである」とした者の割合が 53.0%~58.8%と過半であった (図表 2-17)。
- ┆ 登下校中(歩行中)の小学生の交通事故死者数について今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性を「ゼロとすべきである」とした者の割合は 70.7% (図表 2-18) 飲酒運転による死亡事故件数について「ゼロとすべきである」または「大幅に減少させるべきである」とした者の割合は 84.9% (図表 2-22) あおり運転については 86.9% (図表 2-23) と、いずれも大きな割合になった。

(3) 交通安全に関する対策についての認識

- ┆ 交通安全対策について現在満足していない者の割合が大きいのは、「道路交通秩序の維持」が 39.2%と最も大きく、「道路交通環境の整備」の 29.1%、「安全運転の確保」の 28.9%と続く (図表 2-24)。
- ┆ 交通安全対策について今後重要になると思う者の割合が大きいのは、「道路交通環境の整備」が 58.0%と最も大きく、「道路交通秩序の維持」の 56.8%、「安全運転の確保」の 54.4%と続く (図表 2-25)。
- ┆ 「今後の重要性」が高いにもかかわらず「現在の満足度」が低いのは、「道路交通秩序の維持」「道路交通環境の整備」「安全運転の確保」である (図表 2-26)。
- ┆ 「今後の重要性」が高い中「現在の満足度」が高いのは、「救助・救急活動の充実」である (図表 2-26)。

(4) 交通安全に関する普段からの考え

- 1 交通安全に関して心掛けるべきと考えられる事項のうち、実際に心掛けていない者の割合が2割以上なのは、「交通安全に関する各種活動に参加するよう心掛けている」の54.0%（実際に心掛けていない者の割合）、「歩行中、反射材を使用するよう心掛けている」の48.1%、「家族・友人に交通安全をすすめるよう心掛けている」の30.2%、「自動車乗用中、後部座席の同乗者には、常にシートベルトを着用させるよう心掛けている」の28.0%、「横断歩道の青信号が点滅していたら、渡り始めずに待つよう心掛けている」の23.7%、「体調不良時は運転を控えるよう心掛けている」の23.2%、「子供が自転車に乗るときは、常にヘルメットを着用させるよう心掛けている」の21.7%、「道路を横断する際は、横断歩道付近では横断歩道を渡る、斜めに横断しないなど交通ルールを守るように心がけている」の20.1%であった（図表 2-28～図表 2-32）。
- 1 国、都道府県、都道府県の一部の地域、関係団体等が実施している、交通安全のイベントやフォーラム、指導や交通事故被害者に対する支援活動、交通安全の視点からの地域のまちづくりや道づくりへの参加、信号機や標識等の点検活動など、交通安全普及啓発活動に「参加したことはないが、興味はある」あるいは「参加したことはなく、興味もない」者（n=2873）が、交通安全普及啓発活動に参加や興味を持ってもらうために重要な改善上位3位内を選んだのは、「交通安全に役立つ情報など内容を充実する」が64.1%と最も多く、「場所を増やし、参加できる機会を多くする」の51.1%、「インターネットなどを通じて、自宅でも参加できるようにする」の44.4%と続く（図表 2-33）。

(5) 先端技術の活用に関する認識

- 1 運転支援機能を利用した場合でも、運転者は自ら常に前方や周囲の状況を確認するとともに、周囲の道路交通や車両の状況に応じて直ちにハンドルを確実に操作することができる必要があることを「知っていた」が51.3%、「知らなかった」が48.7%と、ほぼ半々であった（図表 2-34）。
- 1 運転支援機能搭載車の運転経験がある者（n=608）が、上のような運転支援機能に関する認識を持っていたかどうかを、その機能や利用上の留意事項について、ディーラー等から具体的な説明を受けたかどうか別にクロス集計すると、ディーラー等からの具体的な説明があることによって認識度合いは高まっている（図表 2-35）。
- 1 衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトなどの運転支援機能の利用意向がある者の割合は、54.1%～60.6%であった（図表 2-36）。
- 1 自動運転車の利用意向がある者の割合は、41.6%～43.8%であった（図表 2-36）。
- 1 衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトなどの運転支援機能を搭載した車を運転した経験の有無別に各機能の利用意向をクロス集計すると、運転支援機能を搭載した車の運転経験のある者の方がいない者に比べ、運転支援機能を搭載した車の利用意向がある者の割合が有意に大きい（図表 2-37～図表 2-40）。
- 1 運転支援機能や自動運転を利用したくない理由は、「購入費用が高そう」が47.3%と最も多く、「技術が信頼できそうにない」の37.4%、「技術の具体的内容がよく分からない」の29.8%と続く（「あまり利用したくない」「利用したくない」と回答した項目が1つでもあった者（n=922）のうちの割合）（図表 2-43）。
- 1 自動運転車に期待することは、「交通事故の減少」が68.6%と最も多く、「運転負荷の低減」の36.6%、「渋滞の解消・緩和」の32.8%と続く（図表 2-44）。
- 1 自動運転が実用化した場合に不安に感じることは、「自動運転システム等のエラーや誤作動」が60.4%と最も多く、「自動運転車と非自動運転車の混在」の42.4%、「自動運転車事故時の刑事責任の所在」の40.9%と続く（図表 2-45）。

第3項 アンケート結果に対する検討会における意見

アンケート結果について、検討会においては、サポカーについて運転支援機能の普及、今後5年ほどを見据えて目指すべき方向性等の回答結果に対して意見がなされた。

このうち運転支援機能の普及については、今後どのように国民に理解を深めてもらい、普及させていくか等について、以下のような意見がなされた。

- Ⅰ 運転支援機能を搭載した場合の効果に関する客観的な分析データの提示、国民への周知
- Ⅰ (運転支援機能搭載車の運転経験のある者の利用意向は高いとのアンケート結果を踏まえ、) 試乗会のような機会を増やすこと
- Ⅰ 教習で、運転支援機能をオフにするのではなく、むしろ、作動させて体験する機会を作り、使い方の習得をしてもらうこと
- Ⅰ あくまで支援機能であり、「運転者は自ら常に前方や周囲の状況を確認するとともに、周囲の道路交通や車両の状況に応じて直ちにハンドルを確実に操作することができる必要がある」こと、運転支援機能が搭載された車や自動運転車であっても運転技能の習得は必要なこと、技術の限界と対処方法や利用するメリットの啓発

等

第4項 集計と分析

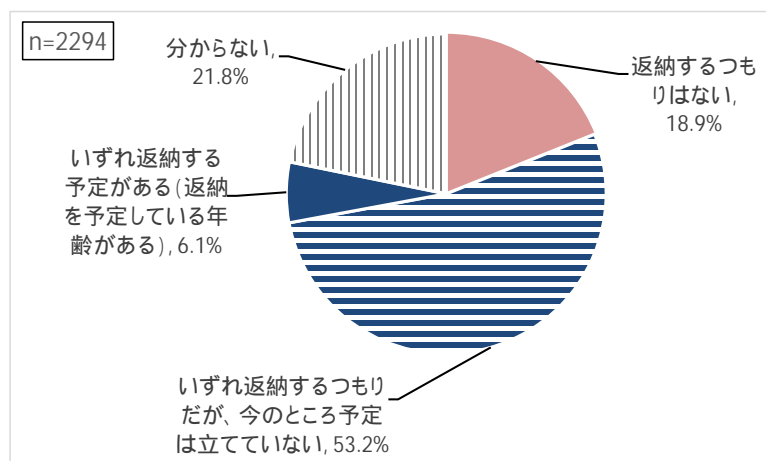
4.1 普段の移動や免許に関する考え

Q11

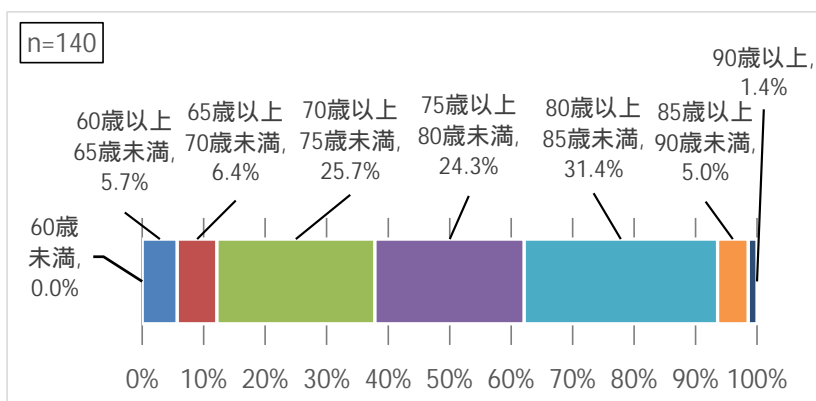
高齢になった免許保有者が、運転免許証を自主的に返納する制度があります。あなたは、免許の返納について、どのようにお考えでしょうか？
次の中から最も当てはまるものを1つ選択し、枠内を記入してください。
今後免許を取得する予定の方は、免許を取得したと仮定してお答えください。

- 1 運転免許を保有している者及び取得予定のある者(n=2294)のうち、返納意向のない者(「返納するつもりはない」)の割合は18.9%、返納意向のある者(「いずれ返納する予定がある(返納を予定している年齢がある)」「いずれ返納するつもりだが、今のところ予定は立てていない」)の割合は59.3%であった(図表 2-1)。
- 1 「いずれ返納する予定がある」と回答した者(n=140)が返納を予定している年齢は、年齢階層別に集計すると図表 2-2 のような分布になっており、平均年齢は75.2歳であった。
- 1 返納意向を年齢階層別(図表 2-3)、免許の保有年数別(図表 2-4)にそれぞれQ2、Q8とクロス集計すると、返納意向のある者の割合は、年齢または免許の保有年数が進むに従い増加している。ただし、返納意向のない者の割合は、25歳以上40歳未満、11年以上21年未満の階層で最も大きい。
- 1 保有している免許の種類別に返納意向をQ7とクロス集計すると、二輪車に係る免許を保有している者における返納意向のない者の割合が有意に大きい(有意水準:0.05)(図表 2-5)。
- 1 バス、トラック、タクシー等職業運転としての自動車利用頻度別、また、通勤、レジャーなど職業運転以外の運転としての自動車利用頻度別に返納意向をQ9とクロス集計したものを図表 2-6、図表 2-7に示す(自動車に係る免許を保有している者(n=2262)のうちの割合)。職業運転では、ほぼ毎日利用する者において、それより利用頻度が少ない者に比べ、返納意向のない者の割合が有意に大きい。職業運転以外の運転では、利用頻度により返納意向のない者の割合に有意な差はなかった。

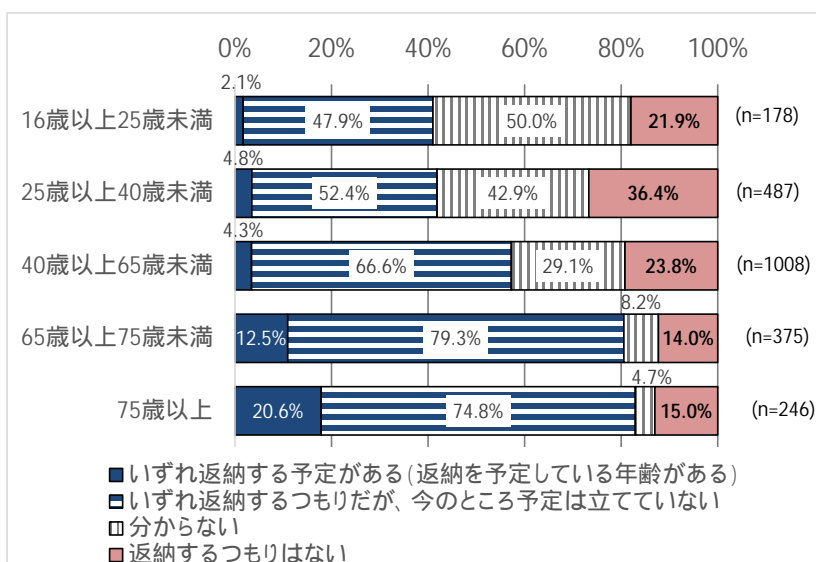
図表 2-1 免許の返納意向



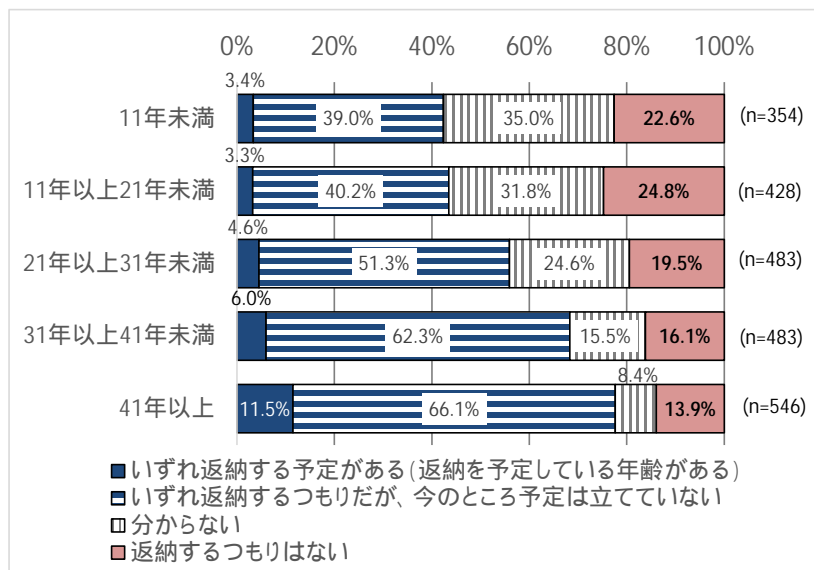
図表 2-2 返納を予定している年齢（階層別集計）



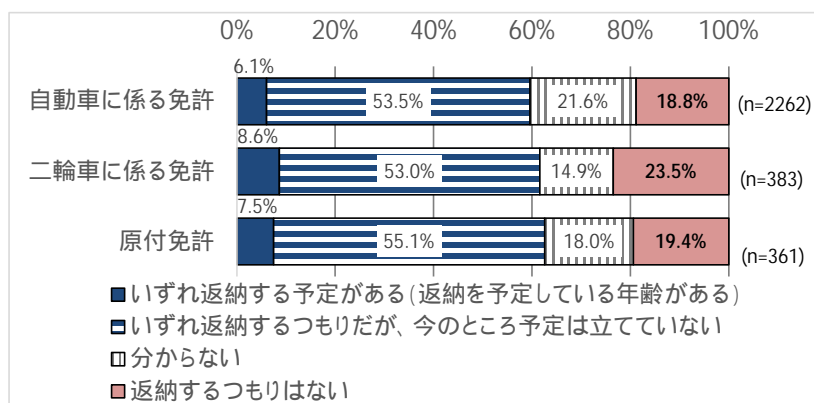
図表 2-3 年齢階層別 - 免許の返納意向（クロス集計）



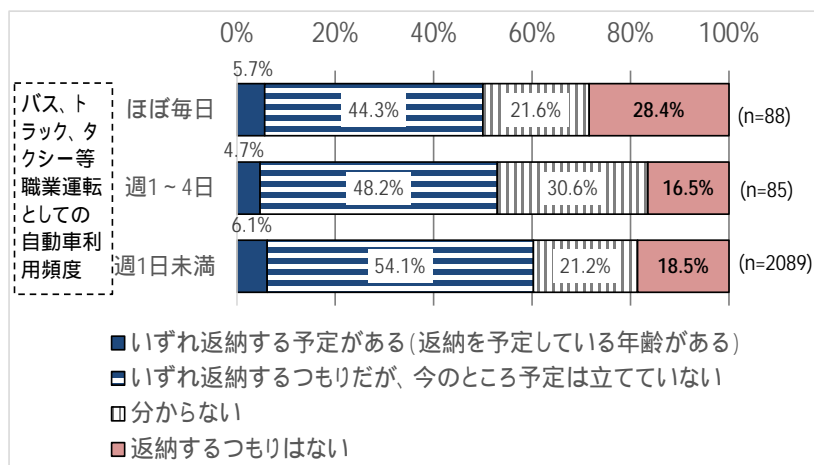
図表 2-4 免許保有年数階層別 - 免許の返納意向 (クロス集計)



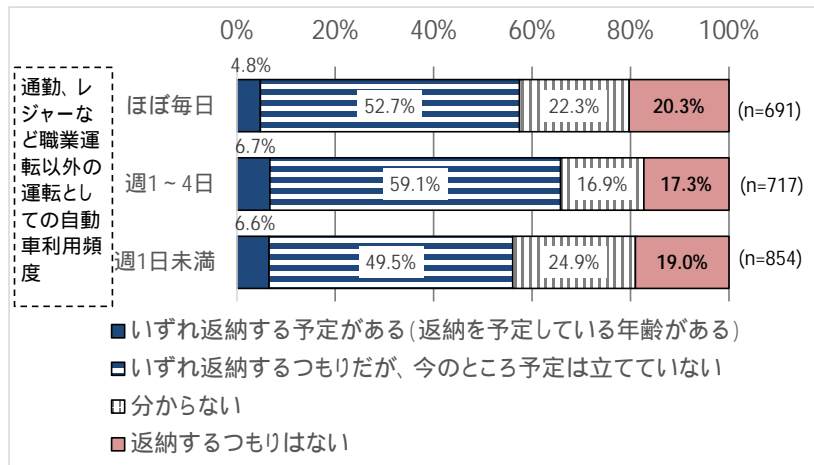
図表 2-5 免許の種類別 - 免許の返納意向 (クロス集計)



図表 2-6 自動車に係る免許 - 自動車利用 (職業運転としての利用) 頻度別 - 免許の返納意向 (クロス集計)



図表 2-7 自動車に係る免許 - 自動車利用（職業運転以外の運転としての利用）頻度別 - 免許の返納意向（クロス集計）



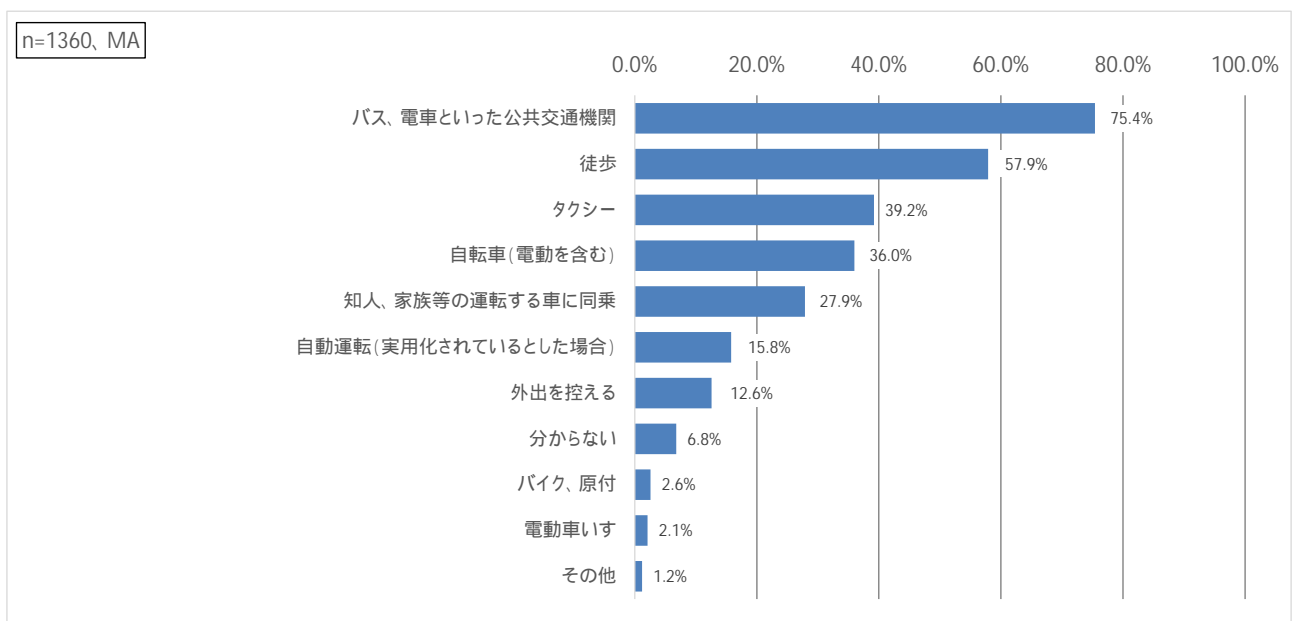
Q12

【Q11で「いずれ返納する予定である」「いずれ返納するつもりだが、今のところ予定は立てていない」と回答した方にお尋ねします】

免許返納後の代替の移動手段として、何を使用される予定ですか。当てはまるものを全て選択してください。(いくつでも)

- 1 免許返納後の代替の移動手段は、「バス、電車といった公共交通機関」が75.4%と最も多く、「徒歩」の57.9%、「タクシー」の39.2%、「自転車(電動を含む)」の36.0%と続く(「いずれ返納する予定である(返納を予定している年齢がある)」「いずれ返納するつもりだが、今のところ予定は立てていない」者(n=1360)のうちの割合)(複数回答可)(図表 2-8)。
- 1 免許返納後の代替の移動手段を住所地域とクロス集計すると、図表 2-9のようになる。全国平均より有意に大きい箇所を水色、小さい箇所をピンク色の網掛けにした。

図表 2-8 免許返納後の代替の移動手段



図表 2-9 地域別 - 免許返納後の代替の移動手段(クロス集計)

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
バス、電車といった公共交通機関	75.4%	76.8%	63.9%	76.1%	74.0%	78.7%	74.1%	71.7%	78.4%
徒歩	57.9%	51.8%	56.7%	61.3%	54.7%	61.3%	54.3%	47.8%	56.8%
タクシー	39.2%	51.8%	48.5%	32.8%	42.9%	32.3%	53.1%	43.5%	41.1%
自転車(電動を含む)	36.0%	26.8%	30.9%	37.4%	35.8%	44.3%	42.0%	32.6%	26.5%
知人、家族等の運転する車に同乗	27.9%	23.2%	27.8%	25.4%	33.9%	22.6%	38.3%	39.1%	25.9%
自動運転(実用化されているとした場合)	15.8%	14.3%	16.5%	16.3%	16.5%	11.1%	16.0%	21.7%	18.4%
外出を控える	12.6%	16.1%	16.5%	8.9%	13.4%	11.5%	25.9%	6.5%	14.1%
分からない	6.8%	5.4%	12.4%	5.7%	5.9%	7.7%	4.9%	6.5%	7.6%
バイク、原付	2.6%	3.6%	1.0%	3.4%	2.4%	2.6%	2.5%	2.2%	1.6%
電動車いす	2.1%	1.8%	1.0%	3.2%	1.6%	0.9%	1.2%	6.5%	1.6%
その他	1.2%	1.8%	3.1%	1.2%	2.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.5%

(注) 全国平均より有意に大きい箇所を水色、小さい箇所をピンク色の網掛けにした。

Q13

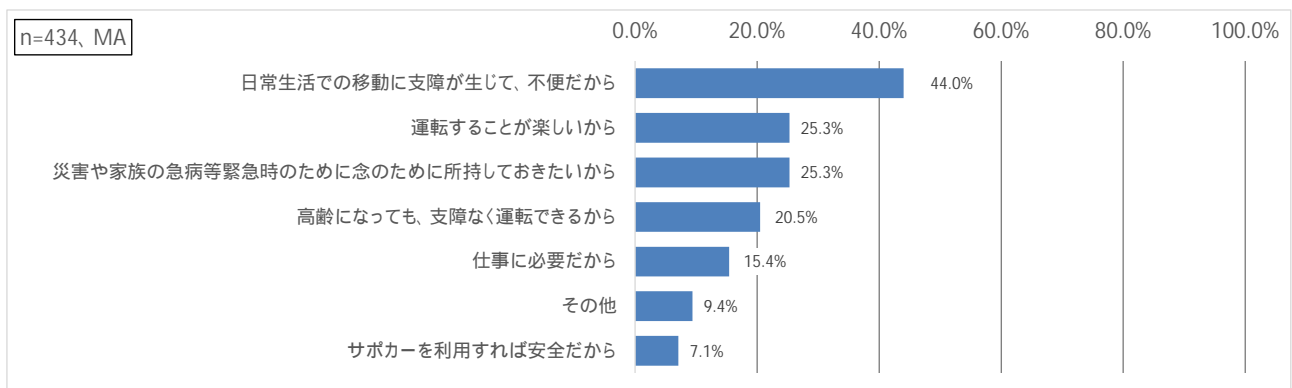
【Q11で「返納するつもりはない」と回答した方にお尋ねします】

あなたが運転免許証を自主的に返納しないとお考えの理由について、当てはまるものを全て選択してください。（いくつでも）

Ⅰ 免許を自主返納しない理由は、「日常生活での移動に支障が生じて、不便だから」が44.0%で最も多く、「運転することが楽しいから」の25.3%、「災害や家族の急病等緊急時のために念のために所持しておきたいから」の25.3%、「高齢になっても支障なく運転できるから」の20.5%と続く（「返納するつもりはない」者（n=434）のうちの割合）（複数回答可）（図表 2-10）。

Ⅱ 「その他」の意見としては、「証明書として」「元々運転しないから」「未だ若いから」などがあつた。

図表 2-10 免許を自主返納しない理由



4.2 交通事故に関する認識

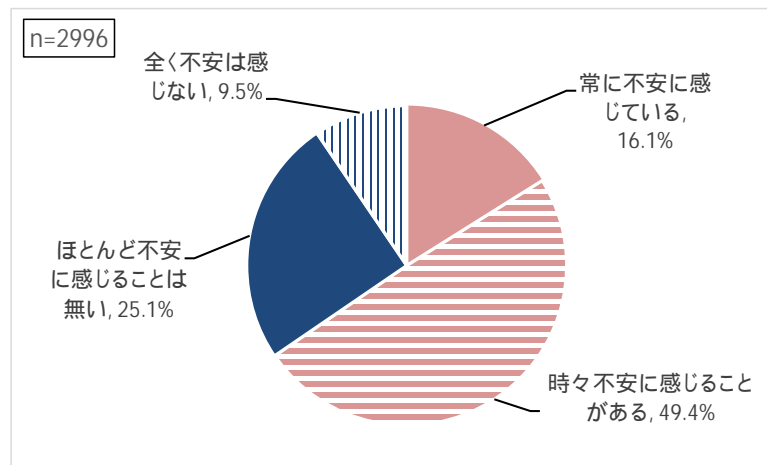
Q15

あなたは日常生活で交通事故の被害者になる可能性があることについて、どのくらい不安を感じていますか？

最も当てはまるものを1つ選んでください。

- 日常生活で交通事故の被害者になる可能性について不安を感じている者（「常に不安に感じている」「時々不安に感じることもある」）の割合は65.5%、不安を感じていない者（「全く不安は感じない」「ほとんど不安に感じることはない」）の割合は34.6%であった（図表2-11）。

図表 2-11 被害者になる可能性への不安



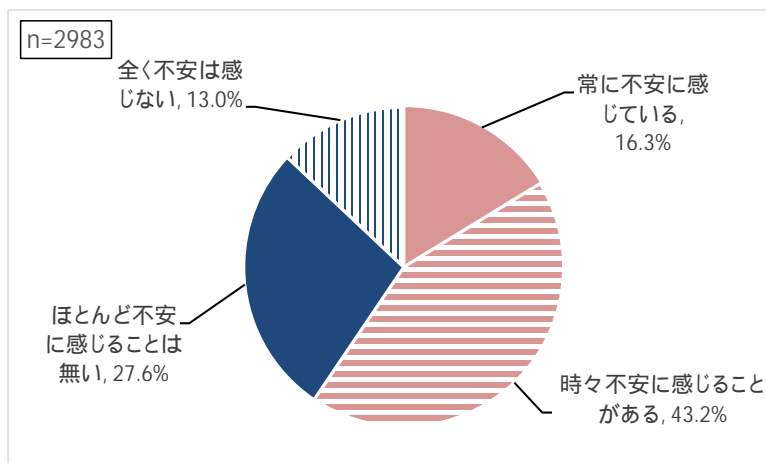
Q16

あなたは日常生活で交通事故の加害者になる可能性があることについて、どのくらい不安を感じていますか？

最も当てはまるものを1つ選んでください。

- 日常生活で交通事故の加害者になる可能性について不安を感じている者（「常に不安に感じている」「時々不安に感じることもある」）の割合は59.5%、不安を感じていない者（「全く不安は感じない」「ほとんど不安に感じることはない」）の割合は40.6%であった（図表2-12）。

図表 2-12 加害者になる可能性への不安



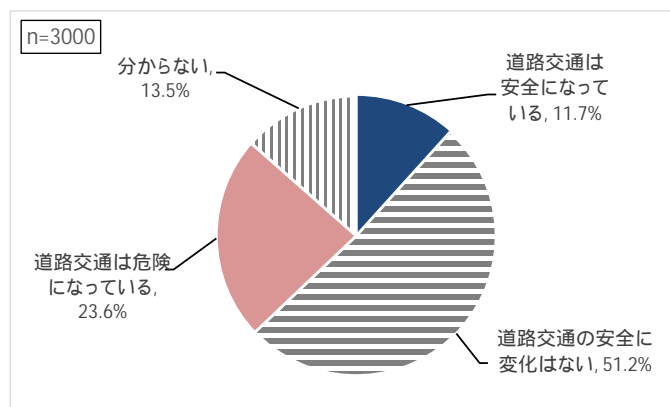
Q17

あなたのお住いの地域で、全体的な道路交通の情勢はどのような方向に向かっていると思いますか？

最も当てはまるもの1つを選んでください。

- 1 全体的な道路交通の情勢がどのような方向に向かっているかを、肯定的に捉えている者(「道路交通は安全になっている」)の割合は 11.7%、否定的に捉えている者(「道路交通は危険になっている」)の割合は 23.6%と、否定的に捉えている者の割合の方が大きかった(図表 2-13)。

図表 2-13 全体的な道路交通の情勢に関する方向感

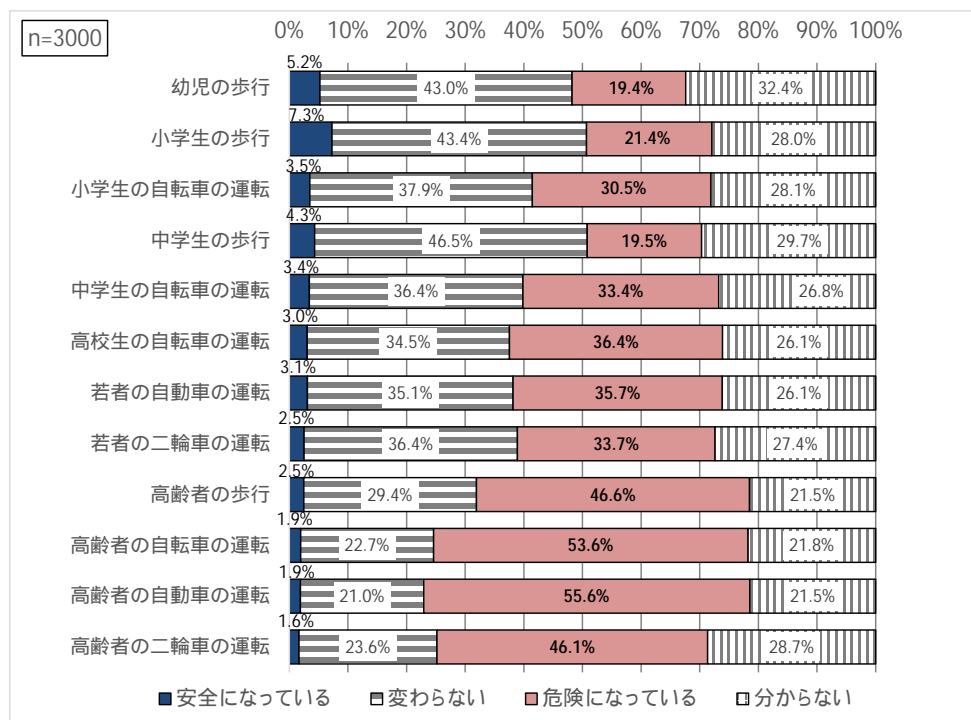


Q18

あなたのお住いの地域で、以下の道路交通の情勢はどのような方向に向かっていると思いますか?(それぞれひとつずつ)

- 1 道路交通の情勢がどのような方向に向かっているか、人とその状態別に見ると、幼児、小学生、中学生、高校生、若者に比べ、高齢者に関わる道路交通の情勢について「危険になっている」と回答した者の割合が大きい(図表 2-14)。

図表 2-14 属性別（人とその状態）の道路交通の情勢変化

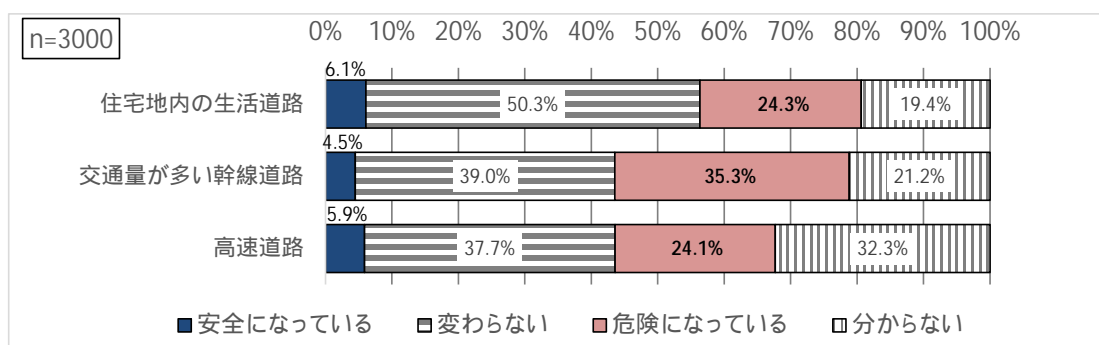


Q19

場所別の道路交通の情勢はどのような方向に向かっていると思いますか？
それぞれ最も当てはまるもの1つを選んでください。（それぞれひとつずつ）

道路の情勢がどのような方向に向かっているか、場所別に見ると、「危険になっている」と捉えられているのは、「交通量が多い幹線道路」が35.3%と最も多く、「住宅地内の生活道路」の24.3%、「高速道路」の24.1%と続く（図表 2-15）。

図表 2-15 属性別（場所）の道路交通の情勢変化

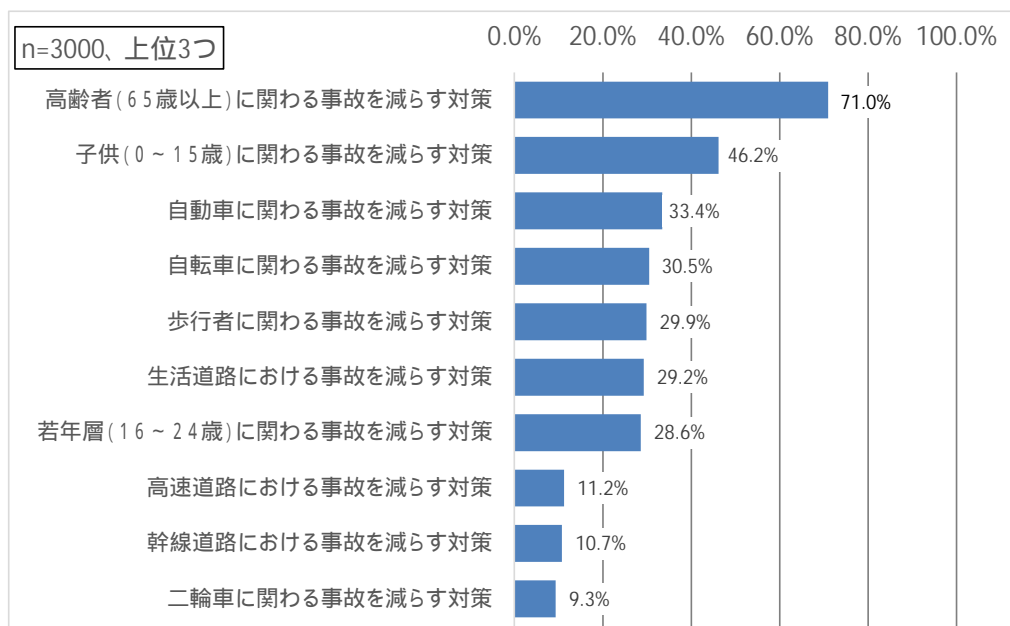


Q20

あなたは今後の交通安全対策としてどの対策が重要だと思いますか？
上位3つを選んでください。

今後重要な交通安全対策上位3つ内に選ばれたのは、「高齢者（65歳以上）に関わる事故を減らす対策」が71.0%で最も多く、「子供（0～15歳）に関わる事故を減らす対策」の46.2%、「自動車に関わる事故を減らす対策」の33.4%と続く。（図表 2-16）。

図表 2-16 今後の重要な交通安全対策



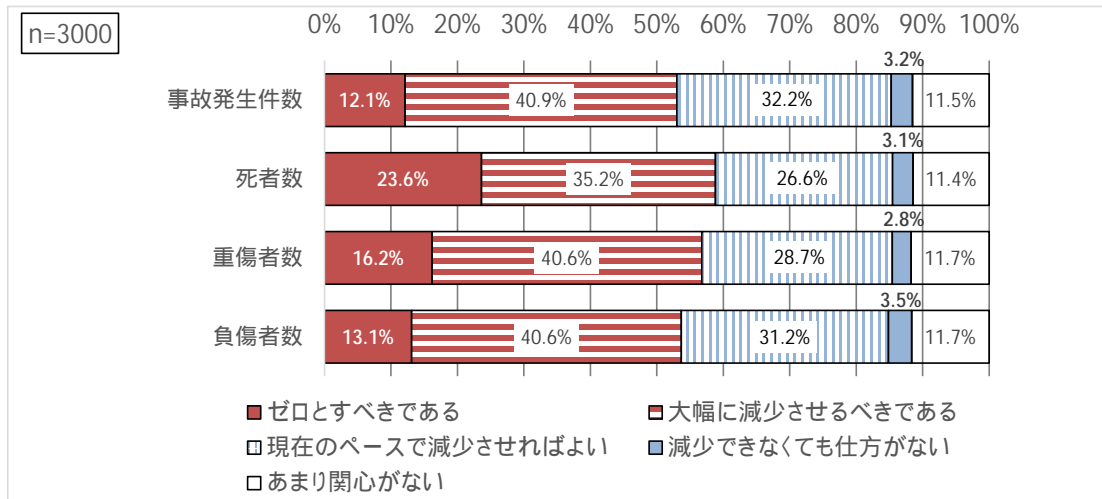
Q21

平成 16 年以降、交通事故の発生件数、死者数、重傷者数、負傷者数(重傷者数を含む)ともに減少傾向が続いています。

今後 5 年ほどを見据えて、交通事故に関して、目指すべき全体的な方向性について、それぞれ最も当てはまるお考えを 1 つ選んでください。(それぞれひとつずつ)

- 今後 5 年ほどを見据えた全体的な目指すべき方向性は、「事故発生件数」「死者数」「重傷者数」「負傷者数」とも、「ゼロとすべきである」または「大幅に減少させるべきである」とした者の割合が 53.0%～58.8%と過半であった(図表 2-17)。

図表 2-17 今後 5 年ほどを見据えた全体的な目指すべき方向性



Q22

登下校中(歩行中)の小学生の交通事故死者数は、道路整備や法令違反車の取締りの強化等により、近年一桁台にて推移しています。

今後 5 年ほどを見据えて、目指すべき方向性について、最も当てはまるお考えを 1 つ選んでください。

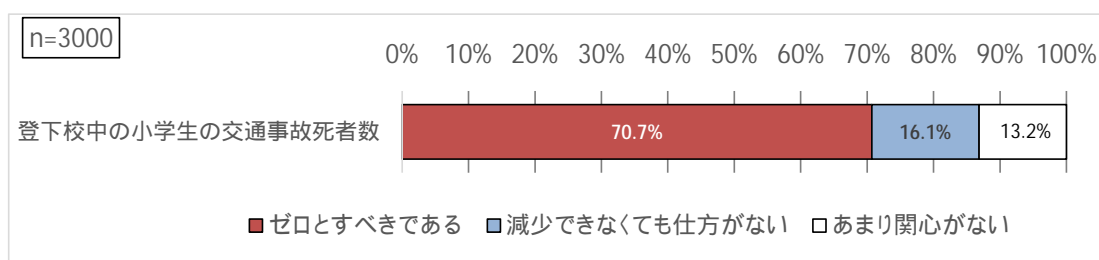
- 登下校中の小学生の交通事故死者数についての今後 5 年ほどを見据えた目指すべき方向性は、「ゼロとすべきである」が 70.7%と、大きな割合になった(図表 2-18)。
- 登下校中の小学生の交通事故死者数を「ゼロとすべきである」とした者の割合は、飲酒運転やあおり運転による死亡事故件数について「ゼロとすべきである」と回答をした者の割合より有意に大きい(図表 2-22、図表 2-23)。
- 登下校中の小学生の交通事故死者数についての今後 5 年ほどを見据えた目指すべき方向性を「ゼロとすべきである」とした者と「減少できなくても仕方がない」とした者の交通安全意識に有意な差があるかどうかを見るため、Q22 の回答別に、Q21(今後 5 年ほどを見据えた全体的な目指すべき方向性)の「死者数」に関する回答をクロス集計すると図表 2-19 のようになる。今後 5 年ほどを見据えた目指すべき方向性として「死者数」を「ゼロとすべき」と回答した者の割合は、登下校中の小学生の交通事故死者数についての今後 5 年ほどを見据えた目指すべき方向性を「減少できなくても仕方がない」とした者における方(4.3%)が「ゼロとすべきである」とした者における(32.1%)よりも有意に少ない。今後 5 年ほどを見据

えた目指すべき方向性として「死者数」を「減少できなくても仕方がない」と回答した者の割合は、登下校中の小学生の交通事故死者数についての今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性を「減少できなくても仕方がない」とした者における方（10.1%）が「ゼロとすべきである」とした者における（1.0%）よりも有意に多い。

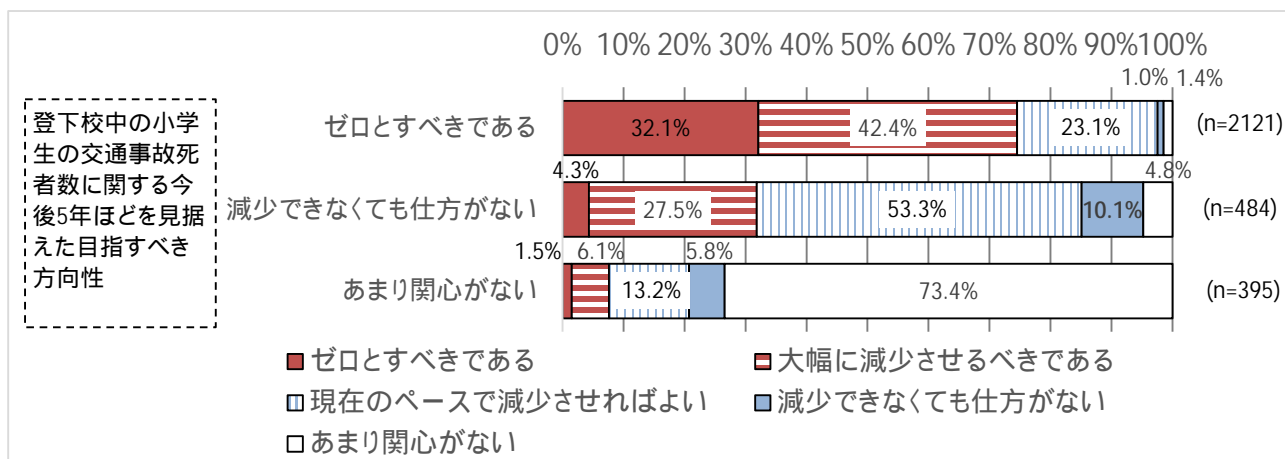
Ⅰ 同様に、Q22の回答別に、Q18（道路交通の情勢変化）の「小学生の歩行」に関する回答をクロス集計すると図表 2-20 のようになる。「小学生の歩行」に関する道路交通の情勢が「安全になっている」と思う者の割合、「危険になっている」と思う者の割合は、登下校中の小学生の交通事故死者数についての今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性を「ゼロとすべきである」とした者と「減少できなくても仕方がない」とした者の間でともに有意差がない。

Ⅰ 同様に、Q22の回答別に、Q28（交通安全に関して心掛けていること）の「子供や高齢者がいる場面では、相手の動きに十分に注意を払うよう心掛けている」に関する回答をクロス集計すると図表 2-21 のようになる。「子供や高齢者がいる場面では、相手の動きに十分に注意を払うよう心掛けている」に「とても当てはまる」と回答した者の割合は、登下校中の小学生の交通事故死者数についての今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性を「減少できなくても仕方がない」とした者における（21.1%）方が「ゼロとすべきである」とした者における（48.7%）よりも有意に少ない。「子供や高齢者がいる場面では、相手の動きに十分に注意を払うよう心掛けている」に「全く当てはまらない」または「あまり当てはまらない」と回答した者の割合は、登下校中の小学生の交通事故死者数についての今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性を「減少できなくても仕方がない」とした者における（9.1%）方が「ゼロとすべきである」とした者における（2.7%）よりも有意に多い。

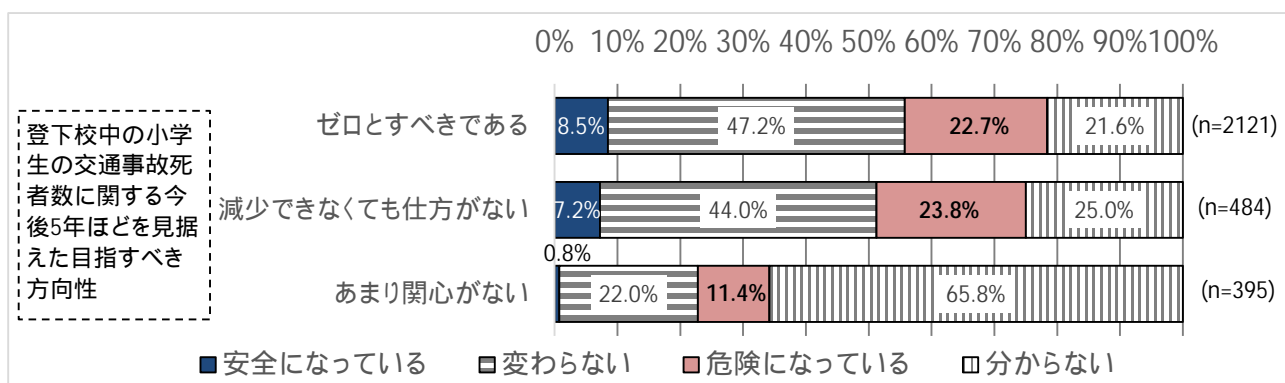
図表 2-18 今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性（登下校中の小学生の交通事故死者数）



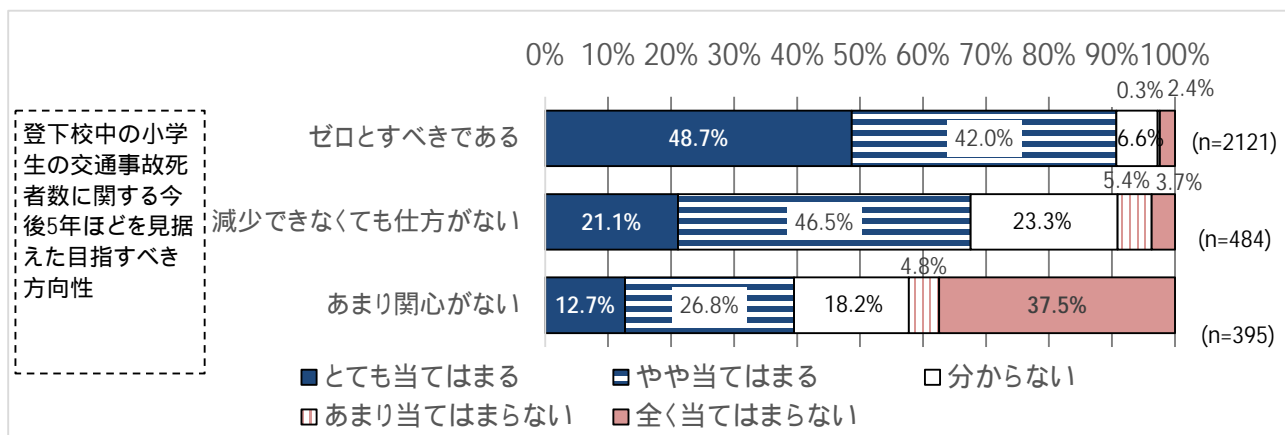
図表 2-19 今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性（登下校中の小学生の交通事故死者数）別 - 今後5年ほどを見据えた全体的な目指すべき方向性（死者数）（クロス集計）



図表 2-20 今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性（登下校中の小学生の交通事故死者数）別 - 「小学生の歩行」に関する道路交通の情勢変化（クロス集計）



図表 2-21 今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性（登下校中の小学生の交通事故死者数）別 - 交通安全に関して心掛けていること（子供や高齢者がいる場面では、相手の動きに十分に注意を払うよう心掛けている）（クロス集計）



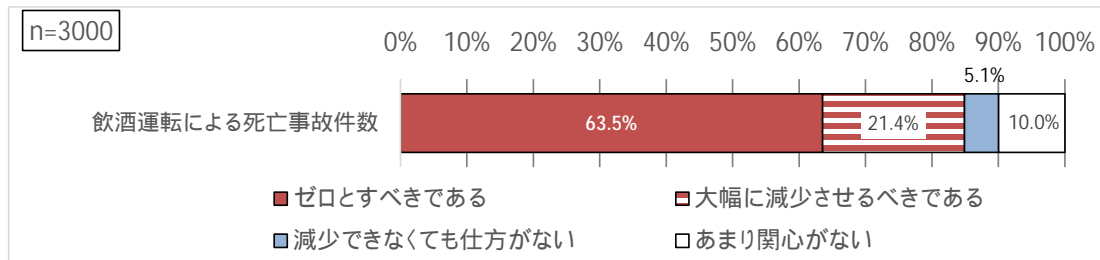
Q23

飲酒運転による死亡事故の件数は、近年横ばい傾向です。

今後5年ほどを見据えて、目指すべき方向性について、最も当てはまるお考えを1つ選んでください。

1 飲酒運転による死亡事故件数についての今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性は、「ゼロとすべきである」または「大幅に減少させるべきである」とした者の割合が、全体的な方向性で同様な回答をした者の割合(53.0%~58.8%)に比べ、84.9%と大きい(図表 2-22)。

図表 2-22 今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性(飲酒運転による死亡事故件数)



Q24

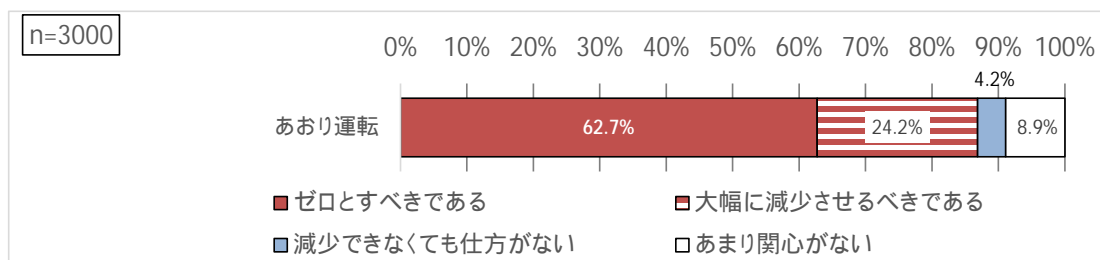
「あおり運転」が社会問題になっています。取締りの強化により、車間距離保持義務違反取締件数は昨年増加しました。

今後5年ほどを見据えて、目指すべき方向性について、最も当てはまるお考えを1つ選んでください。

1 あおり運転についての今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性は、「ゼロとすべきである」または「大幅に減少させるべきである」とした者の割合が、全体的な方向性で同様な回答をした者の割合(53.0%~58.8%)に比べ、86.9%と大きい(図表 2-23)。

1 あおり運転を「ゼロとすべきである」または「大幅に減少させるべきである」とした者の割合は、飲酒運転による死亡事故件数について同様な回答をした者の割合より有意に大きい(図表 2-22、図表 2-23)。

図表 2-23 今後5年ほどを見据えた目指すべき方向性(あおり運転)



4.3 交通安全に関する対策についての認識

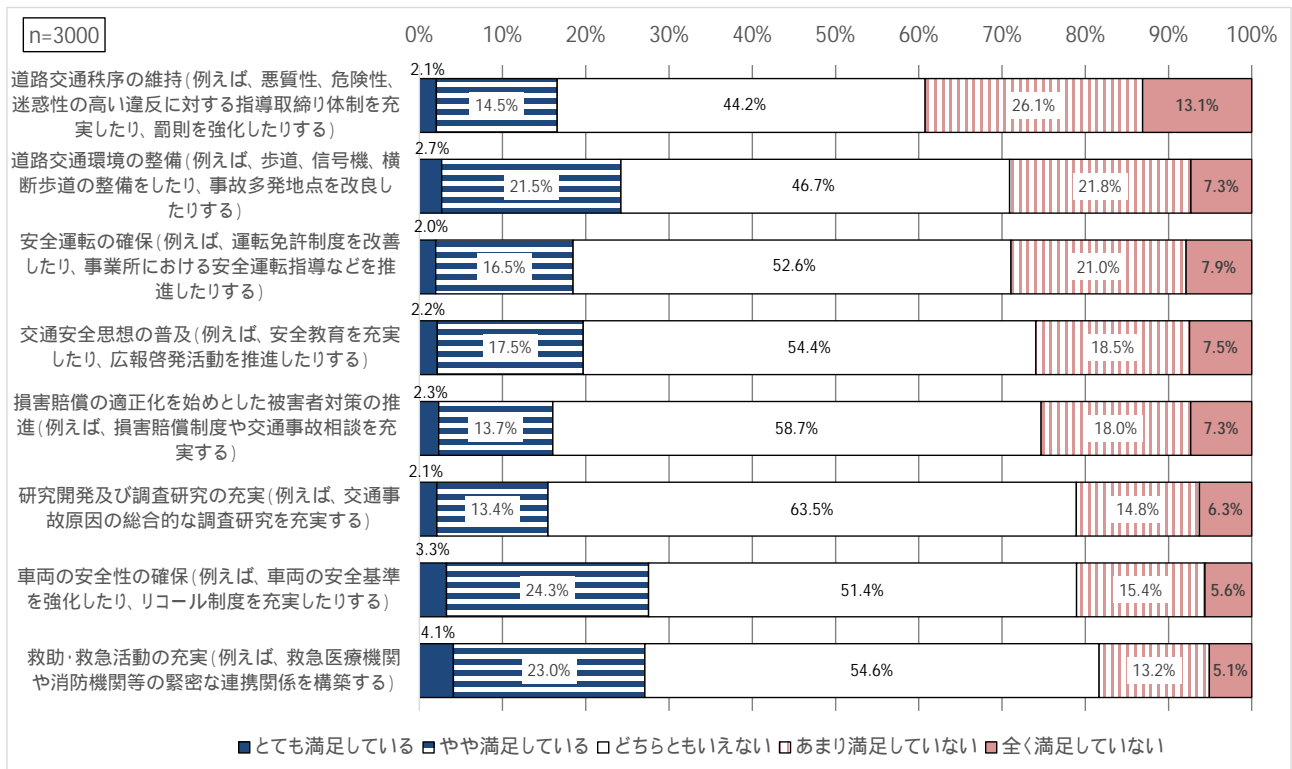
Q25

次の交通安全対策について、現在、あなたはどの程度満足していますか？

それぞれについて、最も当てはまるものを1つ選んでください。(それぞれひとつずつ)

- 交通安全対策について現在満足していない者（「全く満足していない」「あまり満足していない」）の割合が大きいのは、「道路交通秩序の維持（例えば、悪質性、危険性、迷惑性の高い違反に対する指導取締り体制を充実したり、罰則を強化したりする）」が39.2%と最も大きく、「道路交通環境の整備（例えば、歩道、信号機、横断歩道の整備をしたり、事故多発地点を改良したりする）」の29.1%、「安全運転の確保（例えば、運転免許制度を改善したり、事業所における安全運転指導などを推進したりする）」の28.9%と続く(図表 2-24)。
- その他、満足していない対策としては、「あおり運転の厳罰化」「事故率では10代、20代が非常に多いことの認識と対策が必要」「歩道を走ったり、スマホをいじりながら運転したりする自転車が多すぎる」などが挙げられた。

図表 2-24 交通安全対策についての現在の満足 / 不満足



Q26

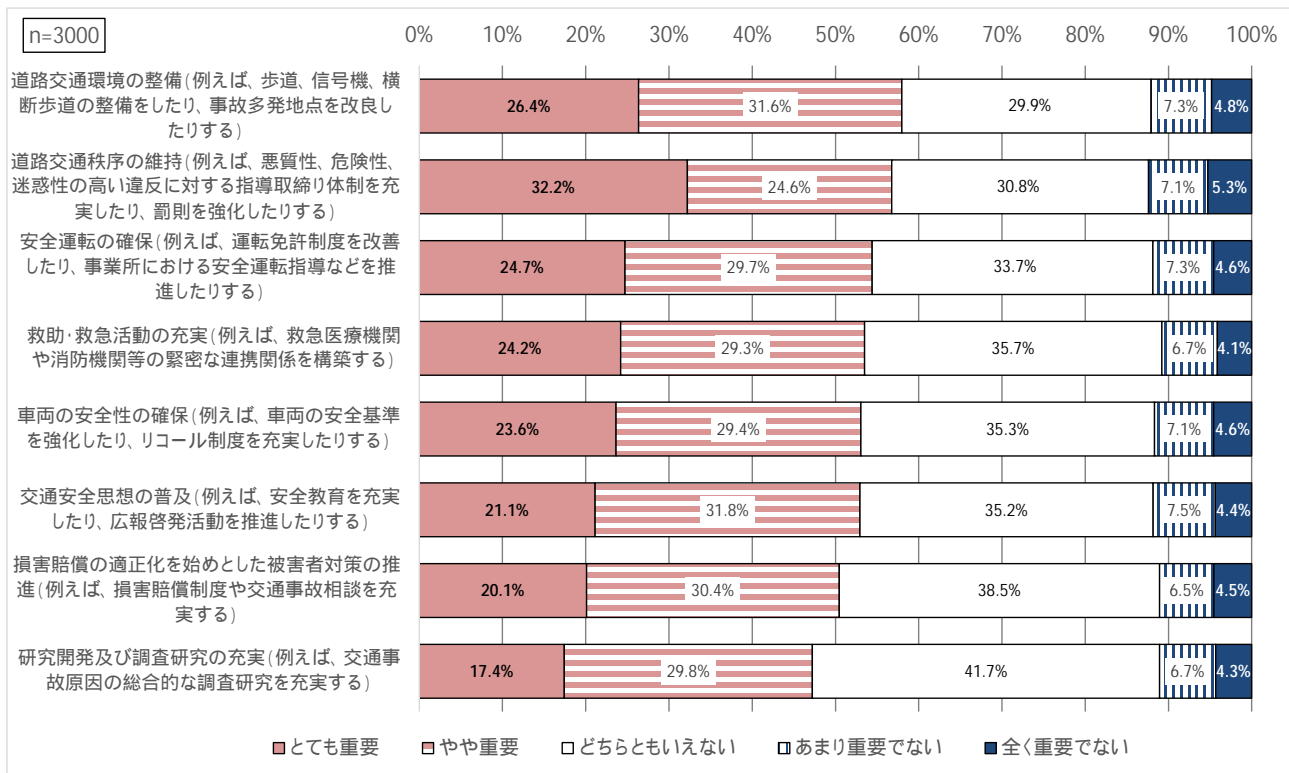
現在、進められている交通安全対策について、今後、あなたはどの程度重要になると思いますか？

それぞれについて、最も当てはまるものを1つ選んでください。(それぞれひとつずつ)

1 交通安全対策について今後重要になると思う者(「とても重要」「やや重要」)の割合が大きいのは、「道路交通環境の整備(例えば、歩道、信号機、横断歩道の整備をしたり、事故多発地点を改良したりする)」が58.0%と最も大きく、「道路交通秩序の維持(例えば、悪質性、危険性、迷惑性の高い違反に対する指導取締り体制を充実したり、罰則を強化したりする)」の56.8%、「安全運転の確保(例えば、運転免許制度を改善したり、事業所における安全運転指導などを推進したりする)」の54.4%と続く(図表 2-25)。

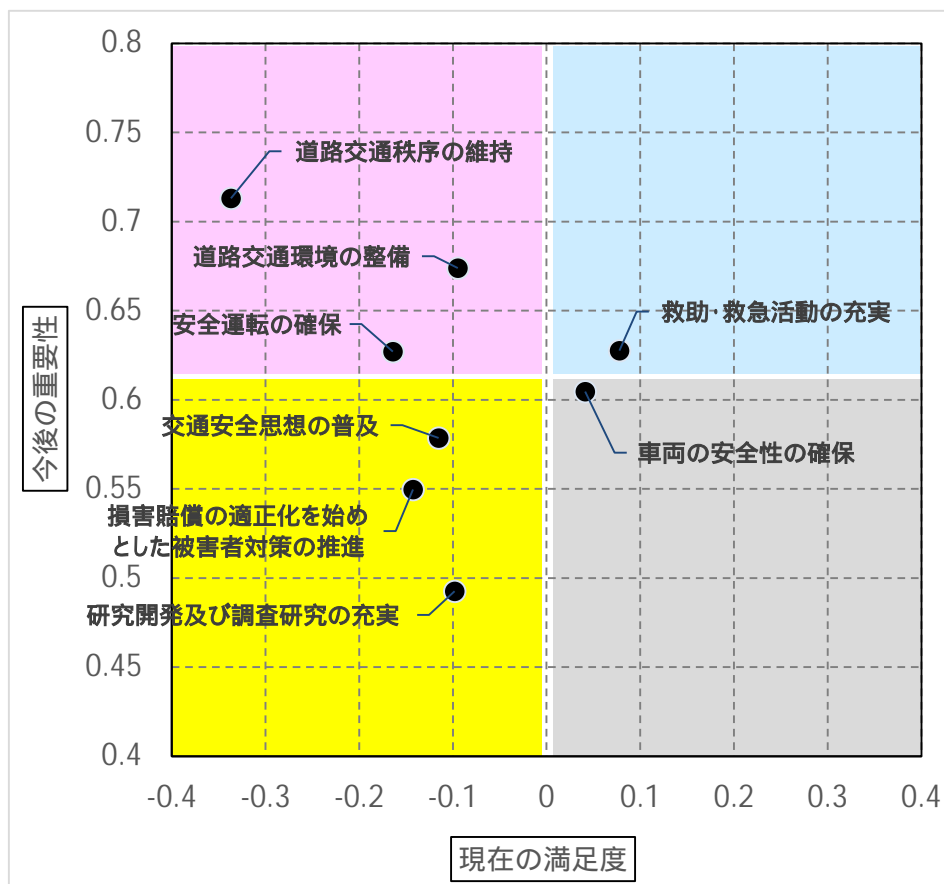
1 その他、今後重要な対策としては、「弱者にやさしい町づくり(歩道橋は高齢者には負担)」「自転車道の設置」「信号機のない横断道での一時停止を徹底して欲しい(子供が待っているのに停止しないことが多すぎる)」などが挙げられた。

図表 2-25 交通安全対策について今後重要/重要でない



- 1 「現在の満足度」を横軸に、「今後の重要性」を縦軸にとって交通安全対策をプロットすると図表 2-26 のようになる。
- 1 「現在の満足度」は、交通安全対策について現在「とても満足している」を2点、「満足している」を1点、「どちらともいえない」を0点、「あまり満足していない」を-1点、「全く満足していない」を-2点として、各交通安全対策について集計したものである。
- 1 「今後の重要性」は、交通安全対策について今後「とても重要」を2点、「やや重要」を1点、「どちらともいえない」を0点、「あまり重要でない」を-1点、「全く重要でない」を-2点として、各交通安全対策について集計したものである。
- 1 「今後の重要性」の平均値は0.61である。「今後の重要性」が平均値より高く「現在の満足度」が負の領域を赤色の網掛け、「今後の重要性」が高く「現在の満足度」が正の領域を青色、「今後の重要性」が低く「現在の満足度」が負の領域を黄色、「今後の重要性」が低く「現在の満足度」が正の領域を灰色で示した。
- 1 「今後の重要性」が高いにもかかわらず「現在の満足度」が低いのは、「道路交通秩序の維持」「道路交通環境の整備」「安全運転の確保」である。
- 1 「今後の重要性」が高い中「現在の満足度」が高いのは、「救助・救急活動の充実」である。

図表 2-26 交通安全対策についての現在の満足度と今後の重要性の相関関係



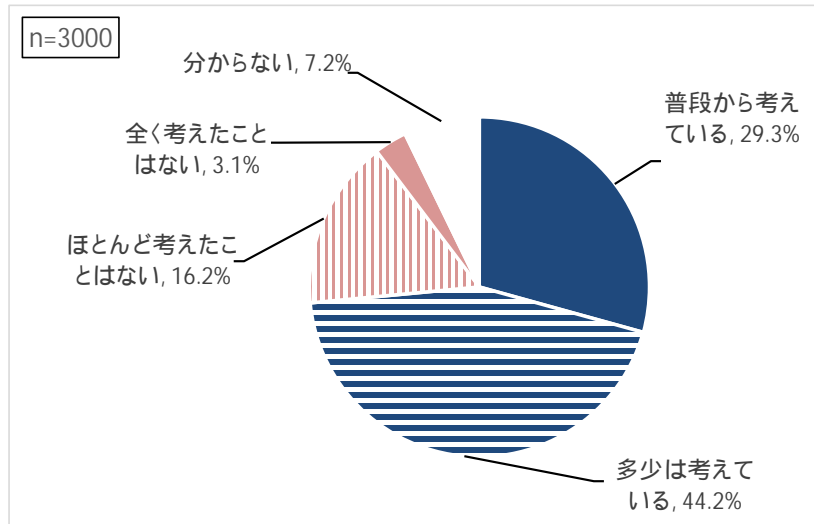
4.4 交通安全に関する普段からの考え

Q27

あなたは交通安全に関して、普段どのくらい考えていますか？
最も当てはまるものを1つ選んでください。

- 1 交通安全対策に関して「普段から考えている」または「多少は考えている」者の割合は、73.5%と、4分の3弱であった（図表 2-27）。

図表 2-27 交通安全に関して普段から考えているかどうか

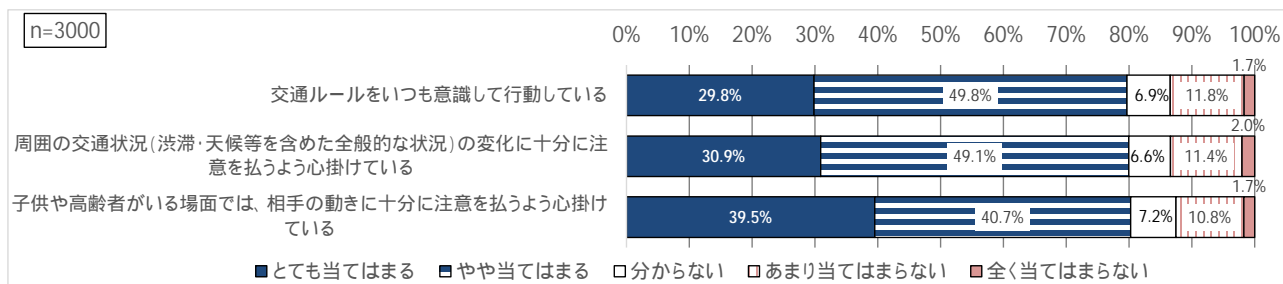


Q28

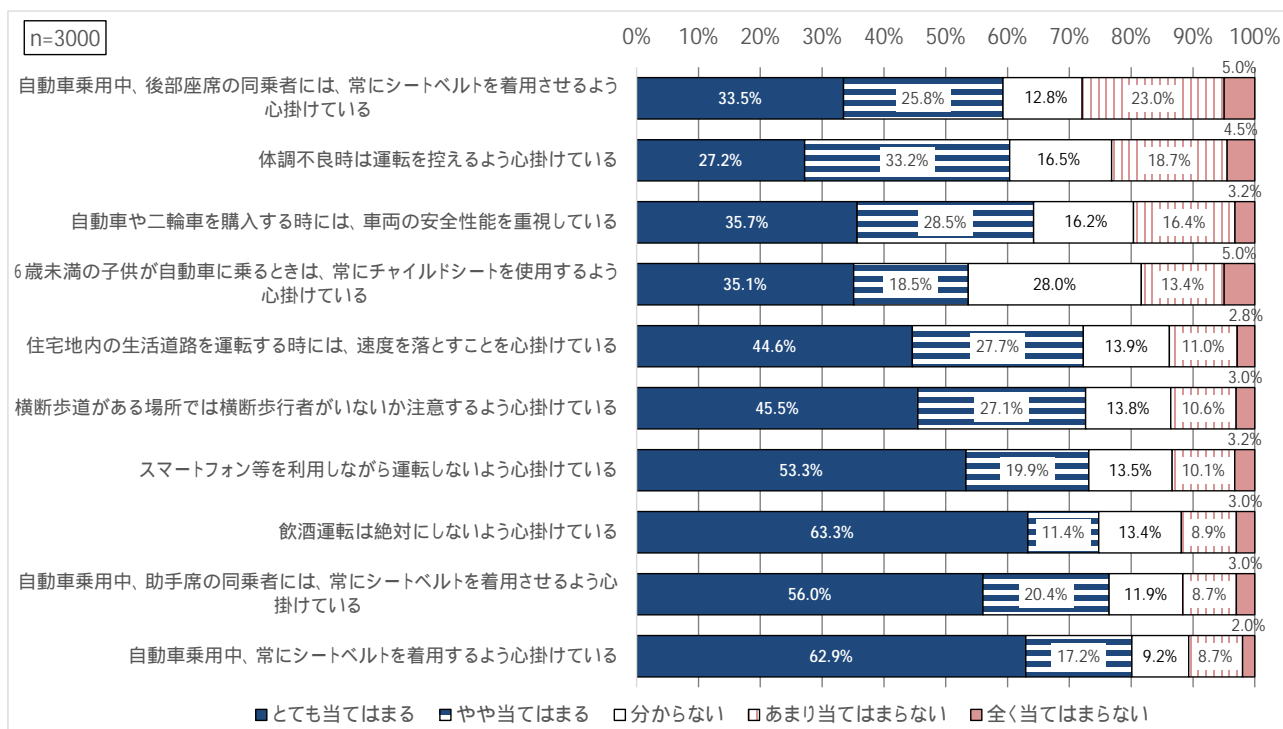
あなたの交通安全に関する意識について、それぞれ最も当てはまるものを1つ選んでください。

- 1 交通安全に関して心掛けるべきと考えられる事項について当てはまるかどうかを聞いたところ、図表 2-28～図表 2-32 のように、ほとんどの事項について、「とても当てはまる」あるいは「やや当てはまる」者の割合が6割以上と大きく、「全く当てはまらない」または「あまり当てはまらない」者の割合は2割未満と小さかった。
- 1 「全く当てはまらない」または「あまり当てはまらない」者の割合が2割以上なのは、「交通安全に関する各種活動に参加するよう心掛けている」の54.0%（「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」の合計）、「歩行中、反射材を使用するよう心掛けている」の48.1%、「家族・友人に交通安全をすすめるよう心掛けている」の30.2%、「自動車乗用中、後部座席の同乗者には、常にシートベルトを着用させるよう心掛けている」の28.0%、「横断歩道の青信号が点滅していたら、渡り始めずに待つよう心掛けている」の23.7%、「体調不良時は運転を控えるよう心掛けている」の23.2%、「子供が自転車に乗るときは、常にヘルメットを着用させるよう心掛けている」の21.7%、「道路を横断する際は、横断歩道付近では横断歩道を渡る、斜めに横断しないなど交通ルールを守るように心がけている」の20.1%であった。

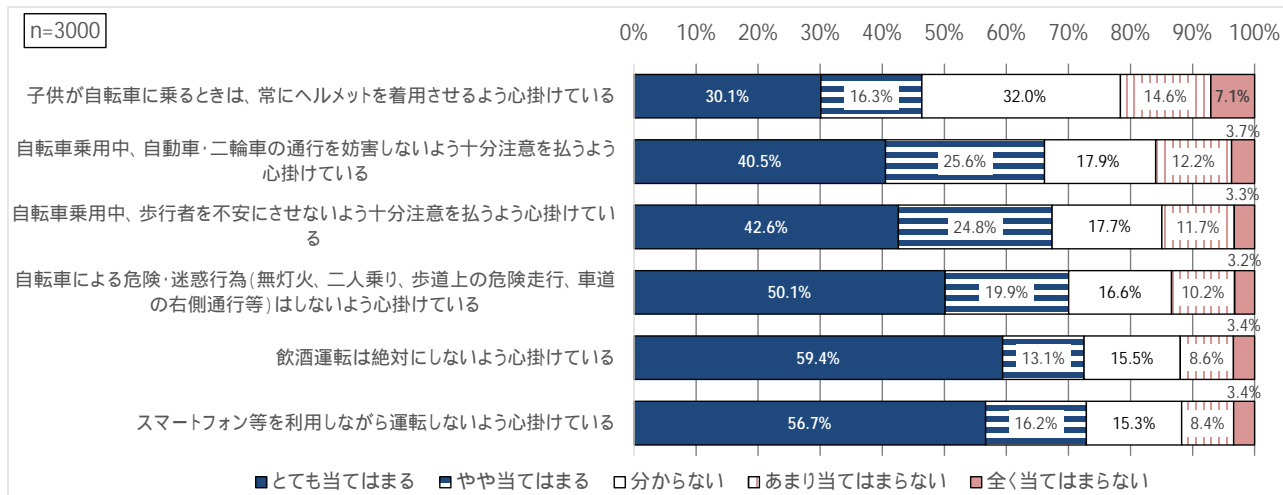
図表 2-28 交通安全に関して心掛けていること（交通安全全般に関すること）



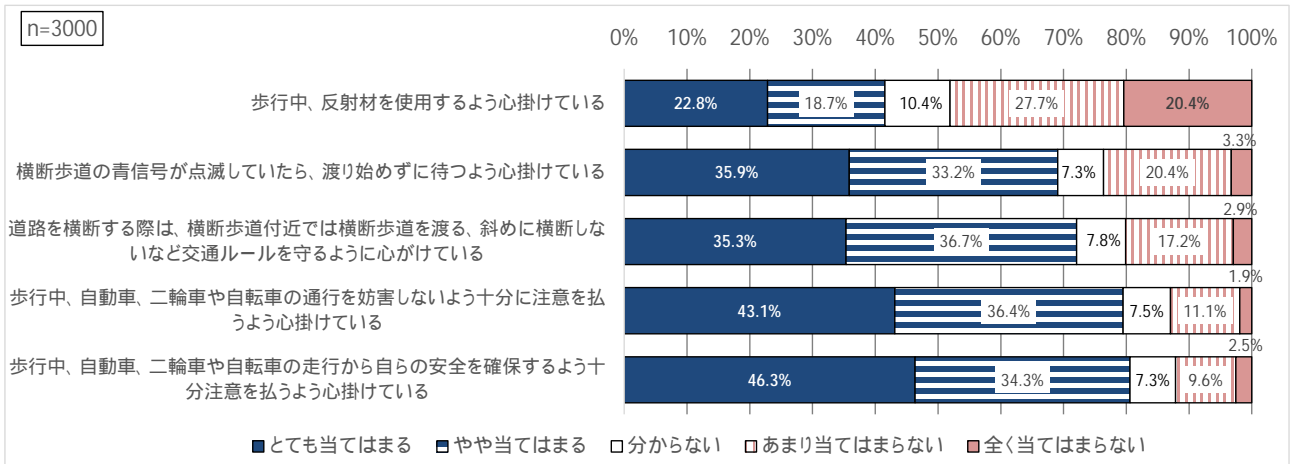
図表 2-29 交通安全に関して心掛けていること（自動車や二輪車の安全に関すること）



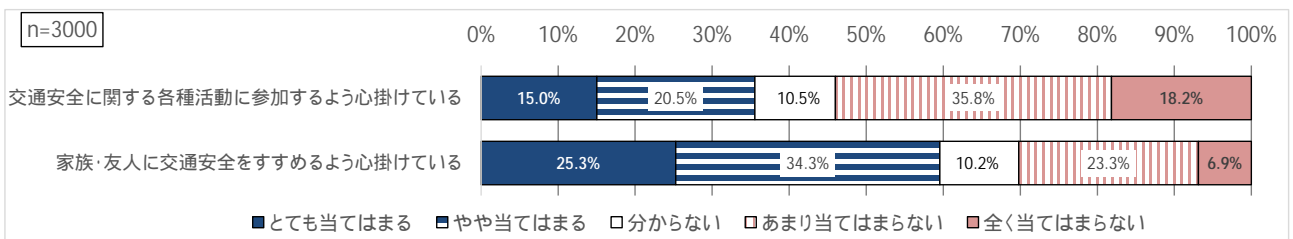
図表 2-30 交通安全に関して心掛けていること（自転車の安全に関すること）



図表 2-31 交通安全に関して心掛けていること（歩行の安全に関すること）



図表 2-32 交通安全に関して心掛けていること（その他）



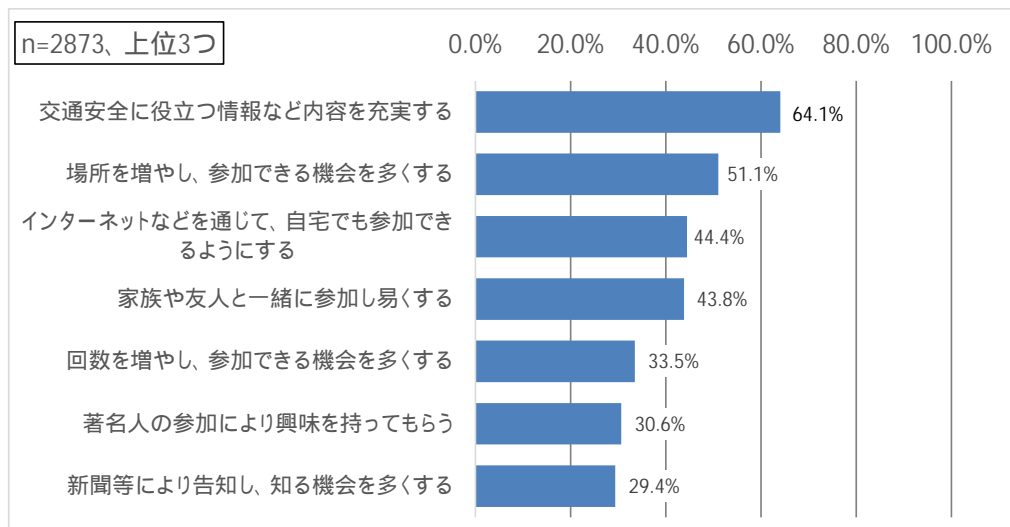
Q30

【Q29で「参加したことはないが、興味はある」、「参加したことはなく、興味もない」と回答した方にお尋ねします】

交通安全普及啓発活動への参加や興味を持っていただくために、どのような改善が重要だと思いますか?上位3つを選んでください。

- Ⅰ 国、都道府県、都道府県の一部の地域、関係団体等が実施している、交通安全のイベントやフォーラム、指導や交通事故被害者に対する支援活動、交通安全の視点からの地域のまちづくりや道づくりへの参加、信号機や標識等の点検活動など、交通安全普及啓発活動に「参加したことはないが、興味はある」あるいは「参加したことはなく、興味もない」者(n=2873)が、交通安全普及啓発活動に参加や興味を持ってもらうために重要な改善上位3位内には「交通安全に役立つ情報など内容を充実する」が64.1%と最も多く、「場所を増やし、参加できる機会を多くする」の51.1%、「インターネットなどを通じて、自宅でも参加できるようにする」の44.4%と続く(図表 2-33)。
- Ⅱ その他の施策としては、「ドラマや映画を高感度の高いタレントで作るべき」「安全意識は、わざわざ何かのイベントでというより、日常の中で意識づけていく環境の方が大事だと思う」などが挙げられた。

図表 2-33 交通安全普及啓発活動への参加を増やすために重要な改善



4.5 先端技術の活用に関する認識

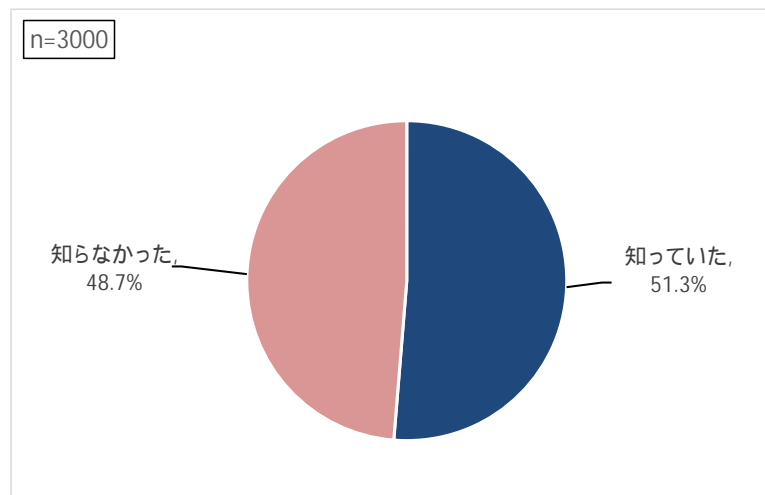
Q31

現在、衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトといった先端技術を搭載した「セーフティ・サポートカー(サポカー)」や「セーフティ・サポートカーS(サポカーS)」の普及が進んでいますが、これらの運転支援機能を利用した場合でも、運転者は自ら常に前方や周囲の状況を確認するとともに、周囲の道路交通や車両の状況に応じて直ちにハンドルを確実に操作することができる必要があります。

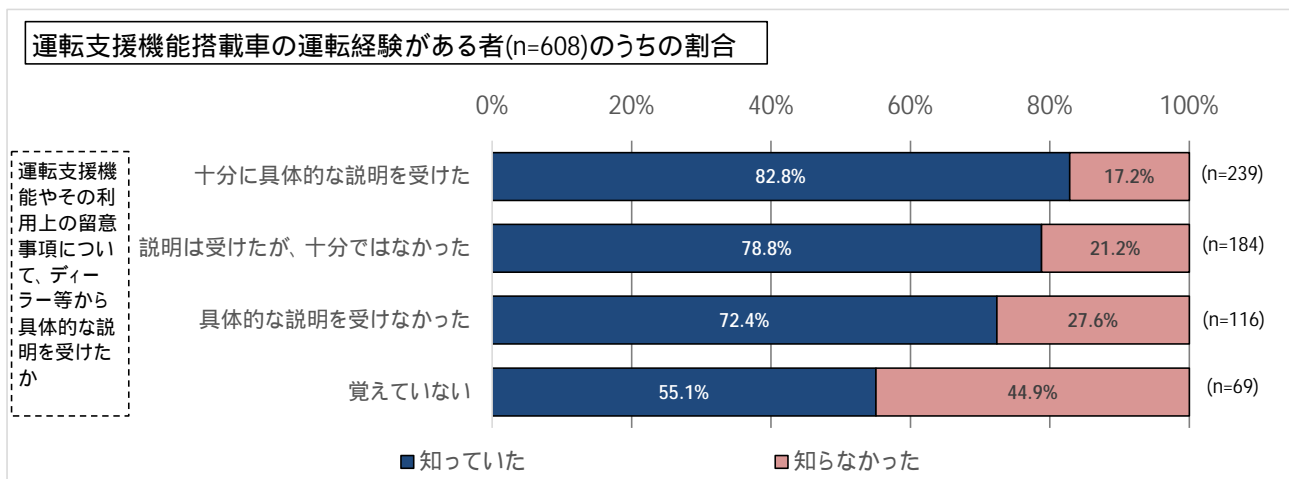
このことについて、知っていましたか。

- 1 運転支援機能を利用した場合でも、運転者は自ら常に前方や周囲の状況を確認するとともに、周囲の道路交通や車両の状況に応じて直ちにハンドルを確実に操作することができる必要があることを「知っていた」のが 51.3%、「知らなかった」のが 48.7%と、ほぼ半々であった(図表 2-34)。
- 1 運転支援機能搭載車の運転経験がある者(n=608)が、上のような運転支援機能に関する認識を持っていたかどうかを、その機能や利用上の留意事項について、ディーラー等から具体的な説明を受けたかどうか別に Q33 とクロス集計すると、ディーラー等からの具体的な説明があることによって認識度合いは高まっている(図表 2-35)。

図表 2-34 運転支援機能に関する認識



図表 2-35 ディーラー等からの説明有無別 - 運転支援機能に関する認識(クロス集計)

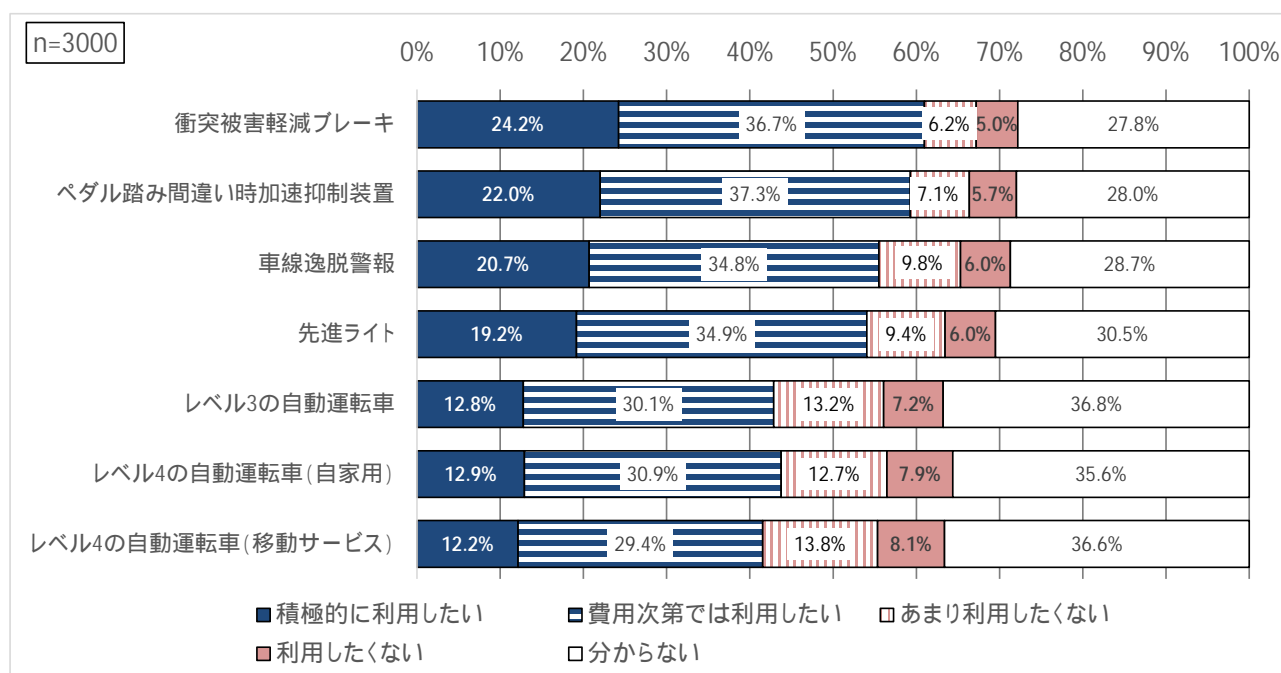


Q35

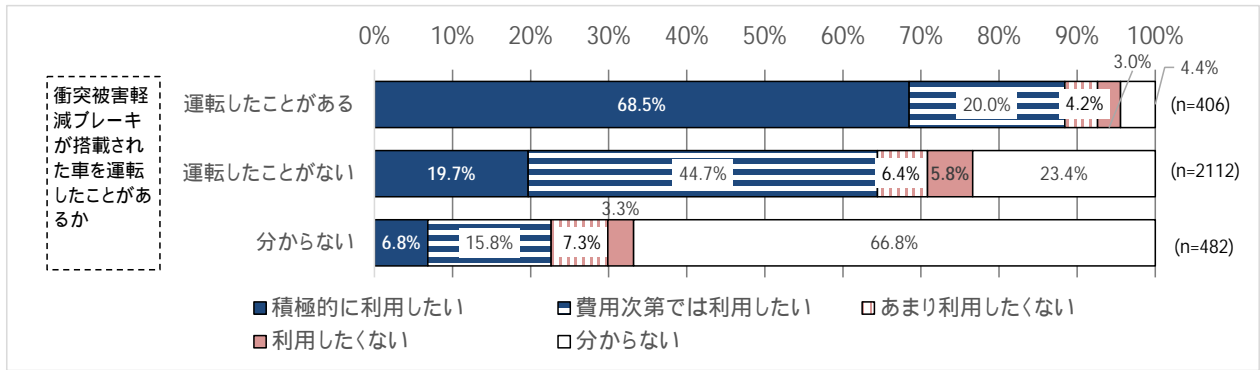
下記の先端技術や自動運転車を利用したいと思いますか。(それぞれひとつずつ)

- Ⅰ 衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトなどの運転支援機能の利用意向がある者(「積極的に利用したい」「費用次第では利用したい」)の割合は、54.1%~61.0%であった(図表 2-36)。
- Ⅰ 自動運転車の利用意向がある者の割合は、41.6%~43.8%であった(図表 2-36)。
- Ⅰ 衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトなどの運転支援機能を搭載した車を運転した経験の有無別に各機能の利用意向を Q32 とクロス集計すると、運転支援機能を搭載した車の運転経験のある者の方がいない者に比べ、運転支援機能を搭載した車の利用意向がある者の割合が有意に大きい(図表 2-37~図表 2-40)。
- Ⅰ 運転経験の有無が「分からない」者も存在しており、運転支援機能に関する意識がほとんどない者と考えられるが、その場合は、利用意向がある者の割合は非常に小さい(図表 2-37~図表 2-40)。
- Ⅰ 利用意向を年齢階層別に Q2 とクロス集計すると、図表 2-41 のようになる。全年齢平均より有意に大きい箇所を水色、小さい箇所をピンク色の網掛けにした。運転支援機能の利用意向は、30歳代までは少なく、55歳以上で多くなる。ただし、75歳以上では利用意向のある者の割合は少なくなっている。
- Ⅰ 利用意向を住所地域とクロス集計すると、図表 2-42 のようになる。全国平均より有意に大きい箇所を水色、通災箇所をピンク色の網掛けにした。運転支援機能の利用意向は、関東、近畿地域で少なく、中部、九州・沖縄地域で多くなっている。

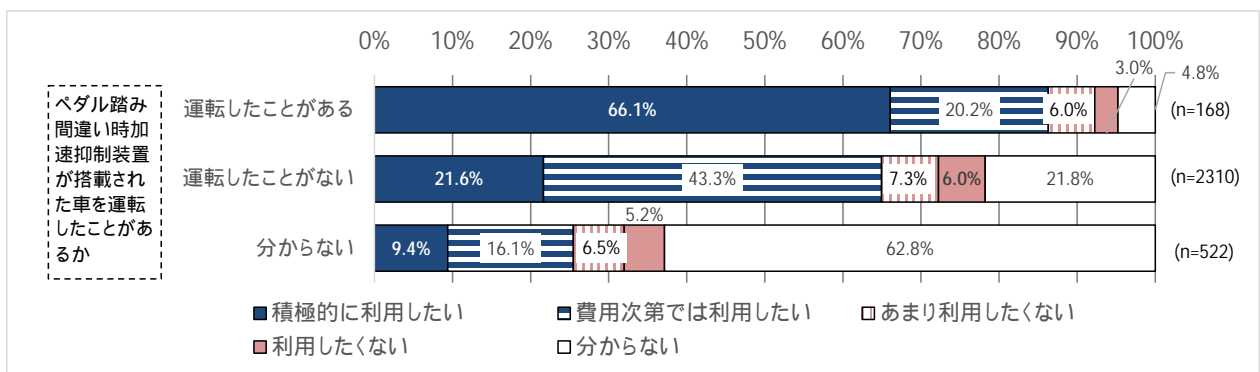
図表 2-36 運転支援機能や自動運転車の利用意向



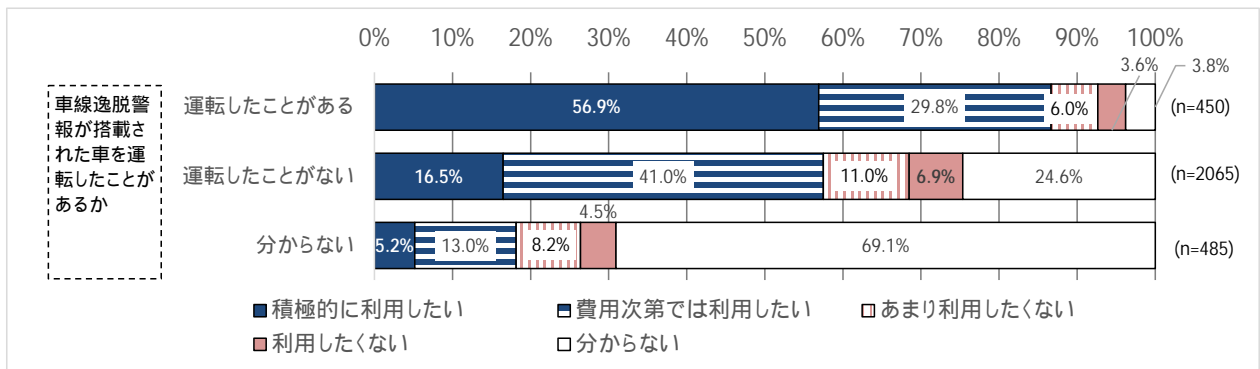
図表 2-37 運転経験の有無別 - 衝突被害軽減ブレーキの利用意向（クロス集計）



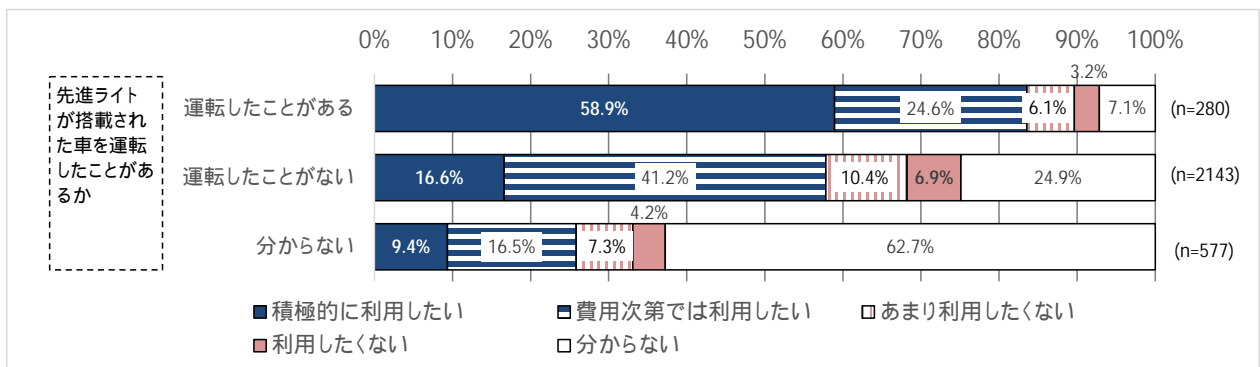
図表 2-38 運転経験の有無別 - ペダル踏み間違い時加速抑制装置の利用意向（クロス集計）



図表 2-39 運転経験の有無別 - 車線逸脱警報の利用意向（クロス集計）



図表 2-40 運転経験の有無別 - 先進ライトの利用意向（クロス集計）



図表 2-41 年齢階層別 - 運転支援機能や自動運転車の利用意向（クロス集計）

	全年齢	16歳以上 25歳未満	25歳以上 40歳未満	40歳以上 55歳未満	55歳以上 60歳未満	60歳以上 65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上
衝突被害軽減ブレーキ	61.0%	51.5%	53.0%	63.8%	69.3%	72.7%	67.9%	58.0%
ペダル踏み間違い時加速抑制装置	59.3%	52.1%	51.4%	61.0%	66.7%	70.1%	66.5%	56.8%
車線逸脱警報	55.5%	48.5%	50.0%	57.8%	63.6%	64.9%	60.3%	51.7%
先進ライト	54.1%	49.1%	47.0%	57.0%	63.2%	62.3%	58.2%	50.2%
レベル3の自動運転車	42.9%	40.7%	40.1%	45.6%	49.1%	42.9%	43.3%	39.9%
レベル4の自動運転車（自家用）	43.8%	41.6%	39.2%	46.1%	50.9%	42.9%	45.6%	42.0%
レベル4の自動運転車 （移動サービス）	41.5%	41.3%	39.8%	45.1%	47.4%	40.3%	41.0%	36.3%

（注）全年齢平均より有意に大きい箇所を水色、小さい箇所をピンク色の網掛けにした。

図表 2-42 地域別 - 運転支援機能や自動運転車の利用意向（クロス集計）

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・ 沖縄
衝突被害軽減ブレーキ	61.0%	61.4%	63.6%	56.8%	67.7%	56.5%	60.3%	65.6%	68.0%
ペダル踏み間違い時加速抑制装置	59.3%	58.3%	60.3%	55.6%	62.9%	55.7%	59.8%	62.2%	69.1%
車線逸脱警報	55.5%	54.3%	58.4%	51.9%	59.9%	51.2%	56.9%	55.6%	64.4%
先進ライト	54.1%	48.8%	57.9%	50.6%	59.3%	51.2%	52.3%	57.8%	60.8%
レベル3の自動運転車	42.9%	38.6%	48.8%	41.1%	44.2%	39.9%	41.4%	47.8%	48.4%
レベル4の自動運転車（自家用）	43.8%	39.4%	49.3%	42.5%	46.4%	39.5%	43.1%	44.4%	48.7%
レベル4の自動運転車 （移動サービス）	41.5%	32.3%	46.4%	39.6%	42.7%	39.7%	43.7%	45.6%	46.9%

（注）全国平均より有意に大きい箇所を水色、小さい箇所をピンク色の網掛けにした。

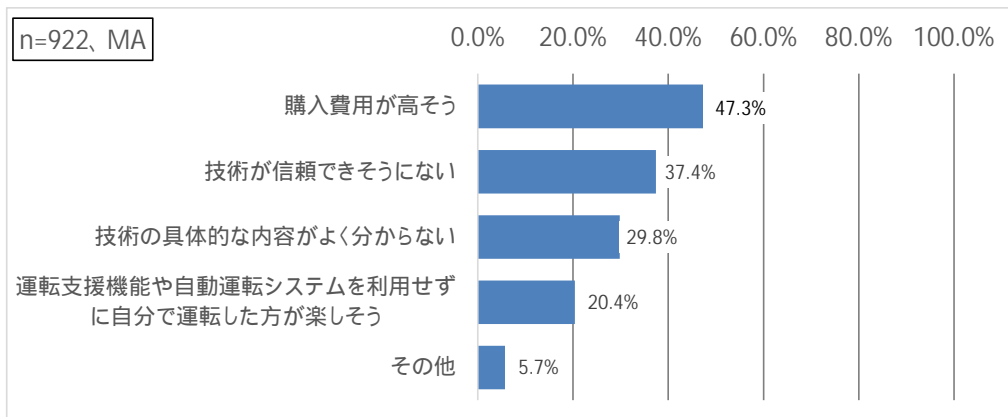
Q36

【Q35 において、「あまり利用したくない」、「利用したくない」と回答された項目が1つでもあった方にお聞きします。】

その理由として当てはまるものを全て選択してください。(いくつでも)

- Ⅰ 運転支援機能や自動運転を「あまり利用したくない」「利用したくない」と回答した項目が1つでもあった者 (n=922) がその理由として挙げたのは、「購入費用が高そう」が 47.3%と最も多く、「技術が信頼できそうにない」の 37.4%、「技術の具体的な内容がよく分からない」の 29.8%と続く(複数回答可)(図表 2-43)。
- Ⅱ 「その他」の意見としては、「車線の切れ目等でも警報が鳴るため、慣れっこになってしまう」「乗っている車が安全でも、他の車が危ない運転・予想外な運転をしたら避けきれない」「運転が下手になる」などがあつた。

図表 2-43 運転支援機能や自動運転車を利用したくない理由

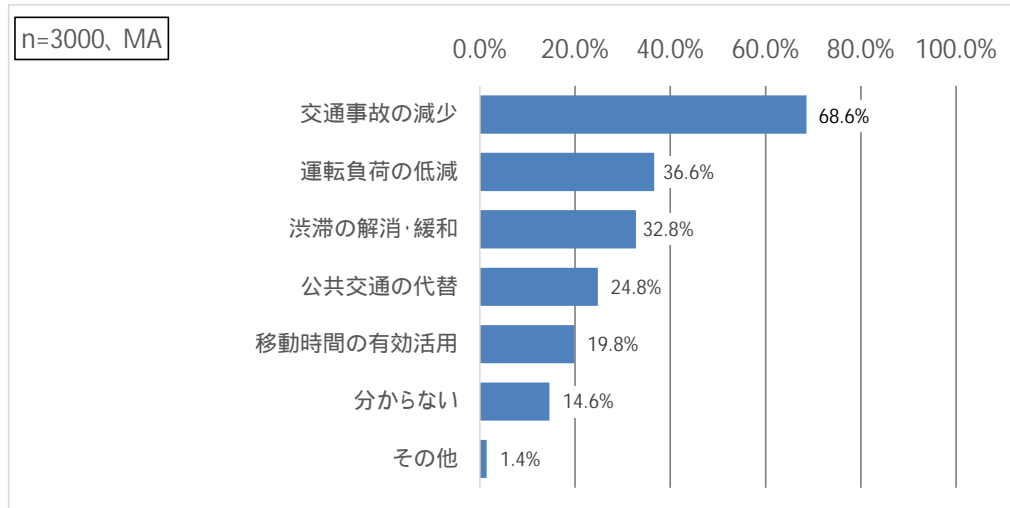


Q37

自動運転車に期待することは何ですか。当てはまるものを全て選択してください。（いくつでも）

- 自動運転車に期待することは、「交通事故の減少」が68.6%と最も多く、「運転負荷の低減」の36.8%、「渋滞の解消・緩和」の32.8%と続く（複数回答可）（図表 2-44）。
- 「その他」の意見としては、「買い物難民救済」「持病のある人用の運転」「これまで運転免許が取得できなかったような人への運転免許の拡充」などがあつた。

図表 2-44 自動運転車に期待すること

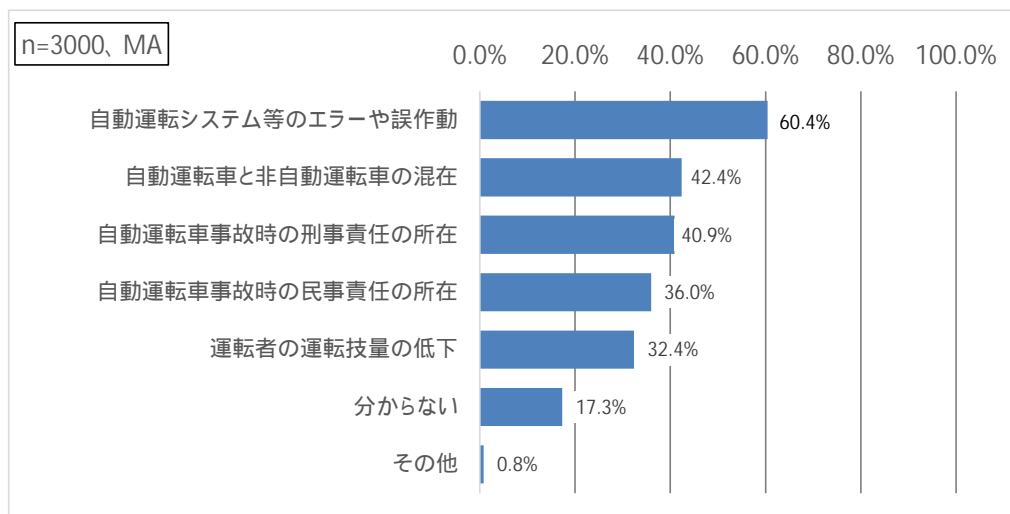


Q38

自動運転が実用化した場合に不安に感じることは何ですか。当てはまるものを全て選択してください。（いくつでも）

- 自動運転が実用化した場合に不安に感じることは、「自動運転システム等のエラーや誤作動」が60.4%と最も多く、「自動運転車と非自動運転車の混在」の42.4%、「自動運転車事故時の刑事責任の所在」の40.9%と続く（複数回答可）（図表 2-45）。
- 「その他」の意見としては、「ハッキング」「凍結路面積雪路面への対応」「トラブル発生時の運転手の対応能力」「お年寄りには機能が理解出来ず、かえって事故につながる気がする」「まだ信用できるレベルにないと思うので、恐ろしいことと理解している」などがあつた。

図表 2-45 自動運転車の実用化した場合に不安に感じること



Q39

今後の交通安全対策についてあなたのお考えをご記入ください。（自由記述）

今後の交通安全対策について以下のような意見が見られた（自由回答）

- | 今話題のあおり運転などはもっと罪を重くしてもいいとおもうし飲酒運転もまだまだ安易に考えている人が多い気がするのもっと罰則を重くして欲しい。
- | ウィンカーを付けないで角を曲がる運転者が非常に増えたように思う。もっと厳しく取り締まるようにしてほしい。
- | スマホ片手の運転による事故も増加していることから、罰則規定の見直し等も含めて、国を挙げての安全対策の充実を期待したい。
- | 高齢者の免許返納のまえに返納しても困らない対策を先に考えて欲しい。
- | 高齢者の免許返納をうたうより、ペダルの踏み間違いなど、間違った時に事故にならない車を早く普及させるべきである。
- | 自転車のルール違反が増えており法律や取り締まりの強化をしてほしい。
- | 自転車の信号無視が多すぎる。スマホ見ながら自転車に乗る者に対しても罰金を取り入れるべき。
- | 通学路に歩道を設置する。狭い道でスピードを出させない工夫を施す。
- | 自動運転車で生活道路では速度制限がかけられるようにする。
- | テレビやSNSなどを使った啓蒙は効果がありそうです。

< 参考資料：調査票 >

1. あなた自身について、お尋ねします。

問1. あなたの性別を選択してください。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2. あなたの年齢をお答えください。枠内に数字を記入してください。

満 歳

問3. あなたがお住いの都道府県を選択してください。

< 都道府県のプルダウン >

問4. あなたがお住いの市区町村の規模を選択してください。

1. 大都市（東京都区部と政令指定都市）	2. 中都市（人口10万人以上の市）
3. 小都市（人口10万人未満の市）	4. 町村

問5. 次の年代の同居されているご家族の方はいらっしゃいますか？それぞれの年齢層について、「いる」または「いない」を選択してください。

	いる	いない
0～5歳の方		
6～15歳の方		
65～74歳の方		
75歳以上の方		

2. 普段の移動や免許に対するお考え等について、お尋ねします。

問6. あなたは運転免許をお持ちですか？

1. 持っている	2. 持っていない
----------	-----------

問7. 【問6で「1. 持っている」と回答した方にお尋ねします】あなたがお持ちの運転免許をすべて選択してください。

1. 自動車に係る免許（大型免許、中型免許、普通免許等）
2. 二輪車に係る免許（大型二輪免許、普通二輪免許）
3. 原付免許

問8. 【問6で「1. 持っている」と回答した方にお尋ねします】あなたが運転免許を初めて取得してから現在までの期間をお答えください。

- 複数の運転免許をお持ちの方は、最初にとった運転免許の保有年数をお答えください。
- 1年未満の方は、年に「0（ゼロ）」を入力してください。

免許保有年数 年

問9. あなたが乗り物を運転・利用する頻度について、それぞれ最も当てはまるものを1つ選択して○を付けてください。

	ほぼ毎日	週3～4日	週1～2日	月1～2日	ほとんど運転・利用しない	全く運転・利用しない
自動車(バス、トラック、タクシー等職業運転として)						
自動車(通勤、レジャーなど上記以外の運転として)						
自動車(自分では運転しないが、同乗等による利用)						
二輪車(運転)						
自転車(運転)						
バス(利用)						
鉄道(利用)						
その他 (<input type="text"/>)						

問10. あなたは一日のうち、平均すると、どのくらいの時間を道路の上で過ごしていますか？徒歩や自動車、二輪車、自転車、バス等について、それぞれ道路上にいる時間を記入してください。

徒歩：		時間		分程度		
自動車：		時間		分程度		
二輪車：		時間		分程度		
自転車：		時間		分程度		
バス：		時間		分程度		
その他（		）：		時間		分程度

問11. 高齢になった免許保有者が、運転免許証を自主的に返納する制度があります。あなたは、免許の返納について、どのようにお考えでしょうか？次の中から最も当てはまるものを1つ選択し、枠内を記入してください。今後免許を取得する予定の方は、免許を取得したと仮定してお答えください。

1. 家族など周囲の人の説得により、すでに返納した（返納した時の年齢： <input type="text"/> 歳）
2. 自主的にすでに返納した（返納した時の年齢： <input type="text"/> 歳）
3. いずれ返納する予定がある（返納を予定している年齢： <input type="text"/> 歳頃）
4. いずれ返納するつもりだが、今のところ予定は立てていない
5. 返納するつもりはない
6. 分からない
7. 免許を保有しておらず、今後も取得予定はないため関係ない

問12. 【問11で「3. いずれ返納する予定である」、「4. いずれ返納するつもりだが、今のところ予定は立てていない」と回答した方にお尋ねします】免許返納後の代替の移動手段として、何を使用される予定ですか。当てはまるものを全て選択してください。

1. バス、電車といった公共交通機関
2. タクシー
3. 知人、家族等の運転する車に同乗
4. バイク、原付
5. 自転車（電動を含む）
6. 電動車いす
7. 徒歩
8. 自動運転（実用化されているとした場合）
9. 外出を控える
10. その他
11. 分からない

問13. 【問11で「5. 返納するつもりはない」と回答した方にお尋ねします】あなたが運転免許証を自主的に返納しないと考える理由について、当てはまるものを全て選択してください。

1. 高齢になっても、支障なく運転できるから
2. 日常生活での移動に支障が生じて、不便だから
3. 運転することが楽しいから
4. 仕事に必要なから
5. サポカーを利用すれば安全だから

6. 災害や家族の急病等緊急時のために念のために所持しておきたいから
7. その他（理由： <input type="text"/> ）

3. 交通事故に関する認識について、お尋ねします。

問 14. あなたとあなたのご家族の加害者・被害者としての「物損事故」、「人身事故」の経験の有無について、それぞれ当てはまるものを選択して○を付けてください。

【加害者の場合（自損・単独を含みます）】

		物損事故がある	人身事故がある	経験はない
あなた	自動車乗車中			
	二輪車乗用中			
	自転車乗用中			
	その他 (<input type="text"/>)			
ご家族	自動車乗車中			
	二輪車乗用中			
	自転車乗用中			
	その他 (<input type="text"/>)			

【被害者の場合】

		物損事故がある	人身事故がある	経験はない
あなた	歩行中			
	自動車乗車中			
	二輪車乗用中			
	自転車乗用中			
	その他 (<input type="text"/>)			
ご家族	歩行中			
	自動車乗車中			
	二輪車乗用中			
	自転車乗用中			
	その他 (<input type="text"/>)			

問 15. あなたは日常生活で交通事故の被害者になる可能性があることについて、どのくらい不安を感じていますか？最も当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。

1. 常に不安を感じている	2. 時々不安に感じることがある
3. ほとんど不安を感じることは無い	4. 全く不安は感じない
5. その他 (<input type="text"/>)	

問 16. あなたは日常生活で交通事故の加害者になる可能性があることについて、どのくらい不安を感じていますか？最も当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。

1. 常に不安を感じている	2. 時々不安に感じることがある
3. ほとんど不安を感じることは無い	4. 全く不安は感じない
5. その他 (<input type="text"/>)	

問 17. あなたのお住いの地域で、**全体的な**道路交通の情勢はどのような方向に向かっていると思いますか？最も当てはまるもの1つ選んで○を付けてください。

1. 道路交通は安全になっている	2. 道路交通の安全に変化はない
3. 道路交通は危険になっている	4. 分からない

問 18. あなたのお住いの地域で、以下の道路交通の情勢はどのような方向に向かっていると思いますか？

	安全になっている	変わらない	危険になっている	分からない
幼児の歩行				
小学生の歩行				
小学生の 自転車の運転				
中学生の歩行				
中学生の 自転車の運転				
高校生の 自転車の運転				
若者の自動車の運転				
若者の二輪車の運転				
高齢者の歩行				
高齢者の 自転車の運転				
高齢者の 自動車の運転				
高齢者の 二輪車の運転				

問 19. **場所別**の道路交通の情勢はどのような方向に向かっていると思いますか？それぞれ最も当てはまるもの1つ選んで○を付けてください。

	安全になっている	変わらない	危険になっている	分からない
住宅地内の生活道路				
交通量が多い 幹線道路				
高速道路				

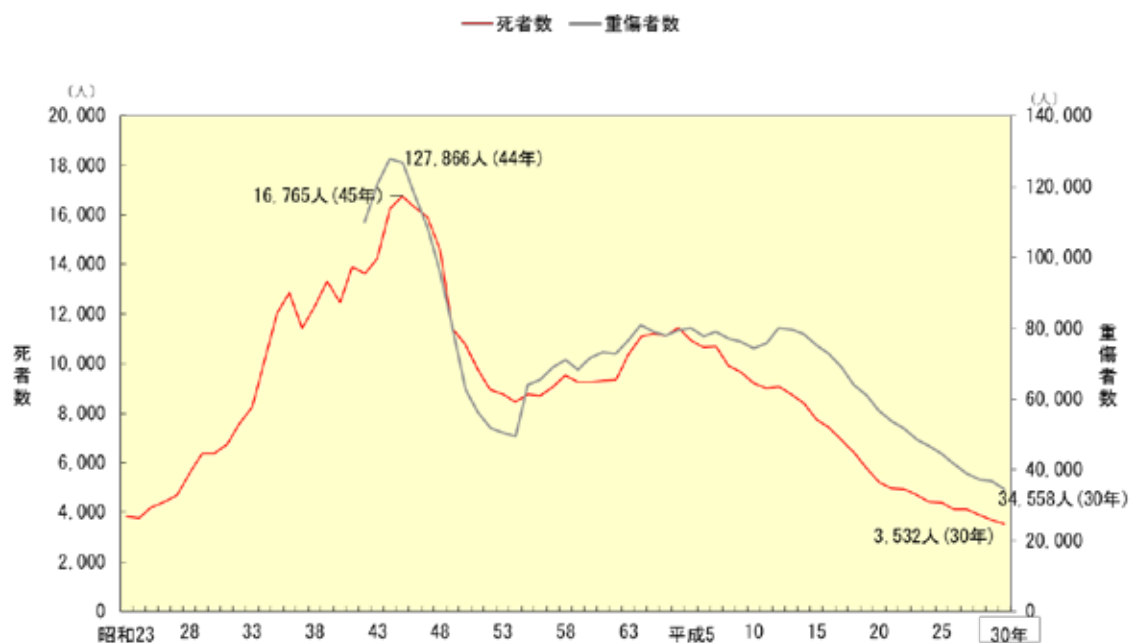
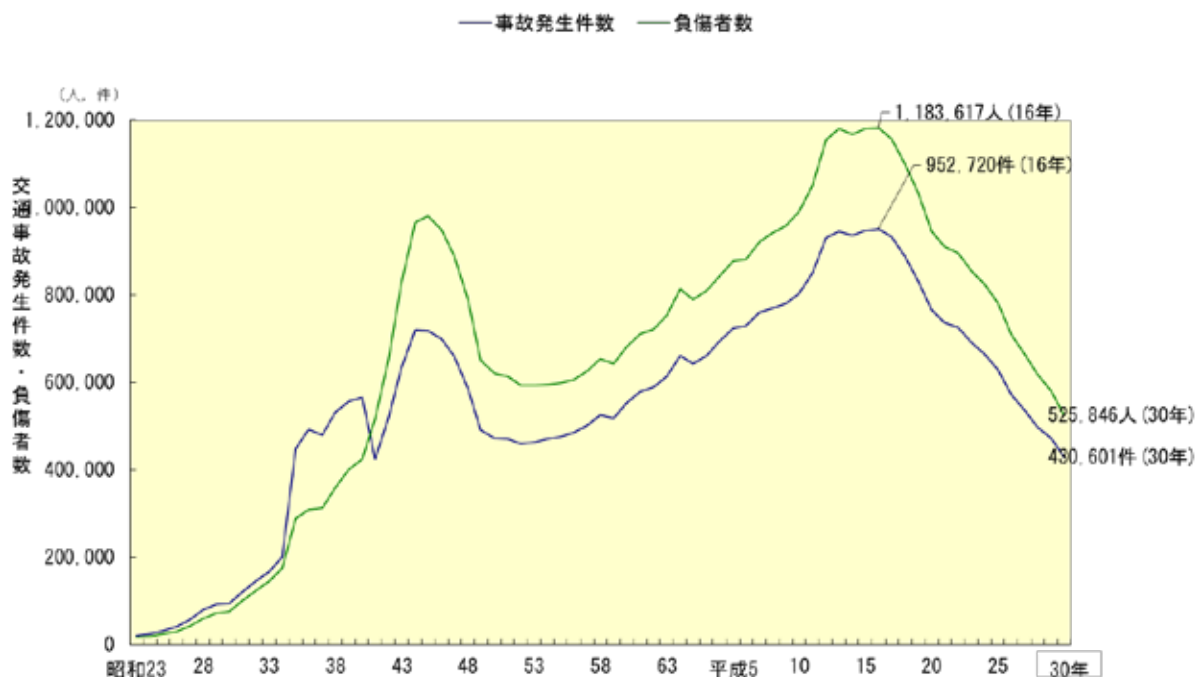
問 20. あなたは今後の交通安全対策としてどの対象が重要だと思いますか？上位3つを選んで○を付けてください。

	重要な対象 第1位	重要な対象 第2位	重要な対象 第3位
子供（0～15歳）に関わる 事故を減らす対策			
若年層（16～24歳）に関わる 事故を減らす対策			
高齢者（65歳以上）に関わる			

事故を減らす対策			
歩行者に関わる事故を減らす対策			
自転車に関わる事故を減らす対策			
二輪車に関わる事故を減らす対策			
自動車に関わる事故を減らす対策			
生活道路における事故を減らす対策			
幹線道路における事故を減らす対策			
高速道路における事故を減らす対策			

問 21. 平成 16 年以降、交通事故の発生件数、死者数、重傷者数、負傷者数（重傷者数を含む）とともに減少傾向が続いています。今後 5 年ほどを見据えて、交通事故に関して、目指すべき全体的な方向性について、それぞれ最も当てはまるお考えを 1 つ選んで○を付けてください。

図表 道路交通事故による交通事故発生件数、死者数、重傷者数及び負傷者数の推移



- 1 警察庁資料による。
- 2 ここでの「死者数」とは、交通事故によって、発生から 24 時間以内に死亡した者をいう。
- 3 「重傷」とは、交通事故によって負傷し、1 箇月（30 日）以上の治療を要する場合をいう。
- 4 昭和 41 年以降の交通事故発生には、物損事故を含まない。
- 5 昭和 46 年以前は、沖縄県を含まない。

図表 道路交通事故による交通事故発生件数、死者数、重傷者数及び負傷者数の過去最多と平成30年の件数又は人数

	過去最多	平成30年
事故発生件数	952,720件(平成16年)	430,601件
死者数	16,765人(昭和45年)	3,532人
重傷者数	127,866人(昭和44年)	34,558人
負傷者数	1,183,617人(平成16年)	525,846人

	ゼロとすべきである	大幅に減少させるべきである	現在のペースで減少させればよい	減少できなくても仕方がない	あまり関心がない
事故発生件数					
死者数					
重傷者数					
負傷者数					

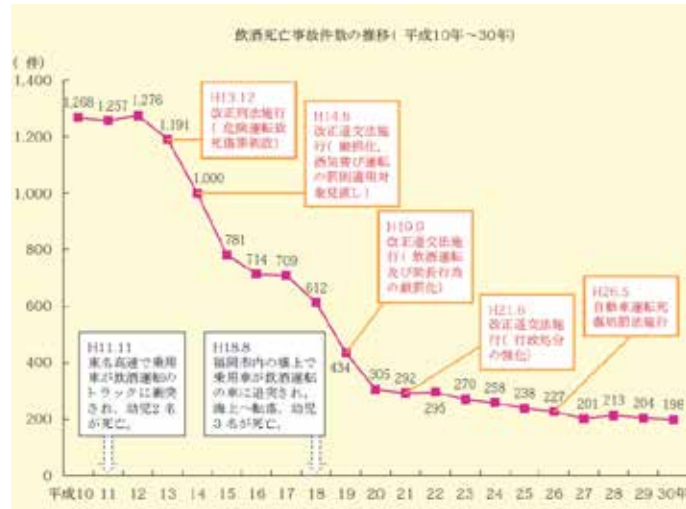
問22. 登下校中(歩行中)の小学生の交通事故死者数は、道路整備や法令違反車の取締りの強化等により、近年一桁台にて推移しています。今後5年ほどを見据えて、目指すべき方向性について、最も当てはまるお考えを1つ選んで○をつけてください。

表 登下校中(歩行中)の小学生の交通事故死者数

平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
8	4	9	2	7

	ゼロとすべきである	減少できなくても仕方がない	あまり関心がない
登下校中(歩行中)の小学生の交通事故死者数			

問 23. 飲酒運転による死亡事故の件数は、近年横ばい傾向です。今後5年ほどを見据えて、目指すべき方向性について、最も当てはまるお考えを1つ選んで○をつけてください。



	ゼロとすべきである	大幅に減少させるべきである	減少できなくても仕方がない	あまり関心がない
飲酒死亡事故件数				

問 24 「あおり運転」が社会問題になっています。取締りの強化により、車間距離保持義務違反取締件数は昨年増加しました。今後5年ほどを見据えて、目指すべき方向性について、最も当てはまるお考えを1つ選んで○をつけてください。

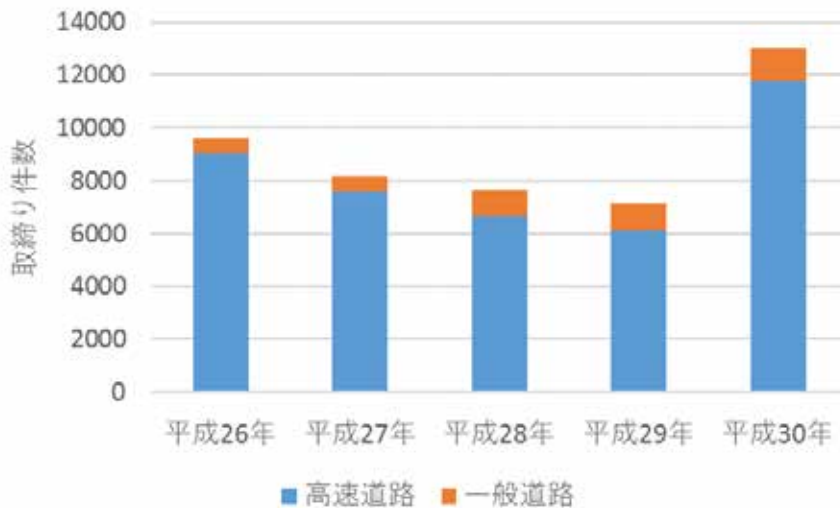


図 車間距離保持義務違反取締り件数の推移

	ゼロとすべきである	大幅に減少させるべきである	減少できなくても仕方がない	あまり関心がない
あおり運転				

4. 交通安全に関する対策について、お尋ねします。

問 25. 次の交通安全対策について、現在、あなたはどの程度満足していますか？それぞれについて、最も当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。

	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	全く満足していない
道路交通環境の整備（例えば、歩道、信号機、横断歩道の整備をしたり、事故多発地点を改良したりする）					
交通安全思想の普及（例えば、安全教育を充実したり、広報啓発活動を推進したりする）					
安全運転の確保（例えば、運転免許制度を改善したり、事業所における安全運転指導などを推進したりする）					
車両の安全性の確保（例えば、車両の安全基準を強化したり、リコール制度を充実したりする）					
道路交通秩序の維持（例えば、悪質性、危険性、迷惑性の高い違反に対する指導取締り体制を充実したり、罰則を強化したりする）					
救助・救急活動の充実（例えば、救急医療機関や消防機関等の緊密な連携関係を構築する）					
損害賠償の適正化を始めとした被害者対策の推進（例えば、損害賠償制度や交通事故相談を充実する）					
研究開発及び調査研究の充実（例えば、交通事故原因の総合的な調査研究を充実する）					
その他（ <input type="text"/> ）					

問 26. 現在、進められている交通安全対策について、今後、あなたはどの程度重要になると思いますか？それぞれについて、最も当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。

	とても重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない
道路交通環境の整備（例えば、歩道、信号機、横断歩道の整備をしたり、事故多発地点を改良したりする）					
交通安全思想の普及（例えば、安全教育を充実したり、広報啓発活動を推進したりする）					
安全運転の確保（例えば、運転免許制度を改善したり、事業所における安全運転指導などを推進したりする）					
車両の安全性の確保（例えば、車両の安全基準を強化したり、リコール制度を充実したりする）					
道路交通秩序の維持（例えば、悪質性、危険性、迷惑性の高い違反に対する指導取締り体制を充実したり、罰則を強化したりする）					
救助・救急活動の充実（例えば、救急医療機関や消防機関等の緊密な連携関係を構築する）					
損害賠償の適正化を始めとした被害者対策の推進（例えば、損害賠償制度や交通事故相談を充実する）					
研究開発及び調査研究の充実（例えば、交通事故原因の総合的な調査研究を充実する）					
その他（ <input type="text"/> ）					

5. 交通安全に関する考えについて、お尋ねします。

問 27. あなたは交通安全に関して、普段どのくらい考えていますか？最も当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。

1. 普段から考えている	2. 多少は考えている
3. ほとんど考えたことはない	4. 全く考えたことはない
5. 分からない	

問 28. あなたの交通安全に関する意識について、それぞれ最も当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。

問 28-1 【交通安全全般に関すること】

	とても 当て はまる	やや 当て はまる	あまり 当てはまら ない	全く 当てはまら ない	分から ない
交通ルールをいつも意識して行動している					
周囲の交通状況(渋滞・天候等を含めた全般的な状況)の変化に十分に注意を払うよう心掛けている					
子供や高齢者がいる場面では、相手の動きに十分に注意を払うよう心掛けている					

問 28-2 【自動車や二輪車の安全に関すること】

	とても 当て はまる	やや 当て はまる	あまり 当てはまら ない	全く 当てはまら ない	分から ない
自動車乗用中、常にシートベルトを着用するよう心掛けている					
自動車乗用中、助手席の同乗者には、常にシートベルトを着用させるよう心掛けている					
自動車乗用中、後部座席の同乗者には、常にシートベルトを着用させるよう心掛けている					
6歳未満の子供が自動車に乗るときは、常にチャイルドシートを使用するよう心掛けている					
体調不良時は運転を控えるよう心掛けている					
飲酒運転は絶対にしないよう心掛けている					
スマートフォン等を利用しながら運転しないよう心掛けている					
住宅地内の生活道路を運転する時には、速度を落とすことを心掛けている					
横断歩道がある場所では横断歩行者がいないか注意するよう心掛けている					
自動車や二輪車を購入する時には、車両の安全性能を重視している					

問 28-3 【自転車の安全に関すること】

	とても 当て はまる	やや 当て はまる	あまり 当てはまら ない	全く 当てはまら ない	分から ない
飲酒運転は絶対にしないよう 心掛けている					
スマートフォン等を利用しな がら運転しないよう心掛けて いる					
自転車による危険・迷惑行為 (無灯火、二人乗り、歩道上の 危険走行、車道の右側通行等) はしないよう心掛けている					
子供が自転車に乗るときは、常 にヘルメットを着用させるよ う心掛けている					
自転車乗用中、自動車・二輪車 の通行を妨害しないよう十分 注意を払うよう心掛けている					
自転車乗用中、歩行者を不安に させないよう十分注意を払う よう心掛けている					

問 28-4 【歩行の安全に関すること】

	とても 当て はまる	やや 当て はまる	あまり 当てはまら ない	全く 当てはまら ない	分から ない
歩行中、自動車、二輪車や自転 車の通行を妨害しないよう十 分に注意を払うよう心掛けて いる					
歩行中、自動車、二輪車や自転 車の走行から自らの安全を確 保するよう十分注意を払うよ う心掛けている					
横断歩道の青信号が点滅して いたら、渡り始めずに待つよ う心掛けている					
歩行中、反射材を使用するよ う心掛けている					
道路を横断する際は、横断歩道 付近では横断歩道を渡る、斜 めに横断しないなど交通ルー ルを守るように心がけている					

問 28-5 【その他】

	とても 当て はまる	やや 当て はまる	あまり 当てはまら ない	全く 当てはまら ない	分から ない
家族・友人に交通安全をすすめるよう心掛けている					
交通安全に関する各種活動に参加するよう心掛けている					

問 29. あなたは、国、都道府県、都道府県の一部の地域、関係団体等が実施している交通安全普及啓発活動について、どのような活動に参加したことがありますか？それぞれの活動について、最も当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。

	複数回、 参加した ことがある	1回、 参加した ことがある	参加したこ はないが、 興味はある	参加したこ はなく、 興味もない
交通安全のイベントやフォーラムに参加する				
交通安全の指導や交通事故被害者に対する支援等、ボランティアとして交通安全活動を行う				
交通安全の視点から、地域のまちづくりや道づくりに参画する				
交通安全の視点から、信号機や標識等の交通安全施設の点検活動に参加する				
その他 (<input type="text"/>)				

問 30. 【問 29 で「参加したことはないが、興味はある」、「参加したことはなく、興味もない」と回答した方にお尋ねします】交通安全普及啓発活動への参加や興味を持っていただくために、どのような改善が重要だと思いますか？上位 3 つを選んで○を付けてください。

	重要な改善 第 1 位	重要な改善 第 2 位	重要な改善 第 3 位
1. 交通安全に役立つ情報など内容を充実する			
2. 著名人の参加により興味を持ってもらう			
3. 家族や友人と一緒に参加し易くする			
4. 場所を増やし、参加できる機会を多くする			
5. 回数を増やし、参加できる機会を多くする			
6. インターネットなどを通じて、自宅でも参加できるようにする			
7. 新聞等により告知し、知る機会を多くする			
8. その他 (<input type="text"/>)			

6. 先端技術の活用推進について

問 31. 現在、衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトといった先端技術を搭載した「セーフティ・サポートカー（サポカー）」や「セーフティ・サポートカーS（サポカーS）」の普及が進んでいますが、これらの運転支援機能を利用した場合でも、運転者は自ら常に前方や周囲の状況を確認するとともに、周囲の道路交通や車両の状況に応じて直ちにハンドルを確実に操作することができる必要があります。このことについて、知っていましたか。（先端技術の説明を参照）

	回答
1. 知っていた	
2. 知らなかった	

問 32. 下記の先端技術が搭載された車を運転したことがありますか。（先端技術の説明を参照）

	運転したことがある	運転したことがない	分からない
衝突被害軽減ブレーキ			
ペダル踏み間違い時加速抑制装置			
車線逸脱警報			
先進ライト			

問 33. 【問 32 において「運転したことがある」と回答された方にお聞きします。】車に搭載された先端技術の機能及び利用上の留意事項について、ディーラー等から具体的な説明を受けましたか。

	回答
1. 十分に具体的な説明を受けた	
2. 説明は受けたが、十分ではなかった	
3. 具体的な説明を受けなかった	
4. 覚えていない	

問 34. 【問 32 において、「運転したことがある」と回答された方にお聞きします。】車に搭載された下記の先端技術が実際に作動したことはありますか。（先端技術の説明を参照）

	機能を ON に して、 作動したこ とがある	機能を ON に しているが、 作動したこ とはない	機能を OFF にして いるため、 作動したこ とはない	分からない
衝突被害 軽減ブレーキ				
ペダル踏み間違い時 加速抑制装置				
車線逸脱警報				
先進ライト				

問 35. 下記の先端技術や自動運転車を利用したいと思いますか。（先端技術の説明及びレベル別の自動運転車の説明を参照）

	積極的に 利用 したい	費用次第 では 利用したい	あまり 利用した くない	利用 した くない	分からない
（先端技術）					
衝突被害軽減ブレーキ					
ペダル踏み間違い時加速 抑制装置					
車線逸脱警報					
先進ライト					
（自動運転車）					
レベル3の自動運転車					
レベル4の自動運転車 （自家用）					
レベル4の自動運転車 （移動サービス）					

図表 先端技術の説明

先端技術等の用語	概要
セーフティ・サポートカー （サポカー）	衝突被害軽減ブレーキを搭載した自動車のこと。
セーフティ・サポートカーS （サポカーS）	衝突被害軽減ブレーキに加え、ペダル踏み間違い時加速抑制装置等を搭載した自動車のこと。
衝突被害軽減ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> 車載のレーダー等により前方の車両等を検知し、衝突の可能性がある場合には、運転者に対して警報する さらに衝突の可能性が高い場合には、自動でブレーキを作動する。
ペダル踏み間違い時加速抑制装置	停止時等に、車載のレーダー等が壁や車両を検知している状態でアクセルを踏み込んだ場合に、急加速を防止する。
車線逸脱警報	車載のカメラにより道路上の車線を検知し、無意識に車線からはみ出しそうになった場合や、はみ出した場合には、運転者に対して警報する。
先進ライト	先行車や対向車等を検知し、自動的にハイビームとロービームの切り替えなどを行う。

図表 レベル別の自動運転車の説明

レベル別の自動運転車	例
レベル3の自動運転車	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路等の限定された領域内で、システムが全ての運転操作を実施。 領域内であっても、緊急時には、システムの要請に応じて、運転者が運転操作を直ちに引き継ぐ必要がある。
レベル4の自動運転車 (自家用)	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路等の限定された領域内で、システムが全ての運転操作を実施。 領域内であれば、緊急時にもシステムが一定の対応をとる。
レベル4の自動運転車 (移動サービス)	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域等での自動運転車による移動サービス(あらかじめ定められたルートで低速で運行する自動運転バス等)。 限定された領域内で、システムが全ての運転操作を実施。 領域内であれば、緊急時にもシステムが一定の対応をとる。

問 36. 【問 35 において、「あまり利用したくない」、「利用したくない」と回答された項目が 1 つでもあった方にお聞きします。】その理由として当てはまるものを全て選択してください。

	回答
1. 技術の具体的な内容がよく分からない	
2. 技術が信頼できそうにない	
3. 購入費用が高そう	
4. 運転支援機能や自動運転システムを利用せずに自分で運転した方が楽しそう	
5. その他 (<input type="text"/>)	

問 37. 自動運転車に期待することは何ですか。当てはまるものを全て選択してください。

	期待すること
1. 交通事故の減少	
2. 公共交通の代替	
3. 運転負荷の低減	
4. 移動時間の有効活用	
5. 渋滞の解消・緩和	
6. その他 (<input type="text"/>)	
7. 分からない	

問 38. 自動運転が実用化した場合に不安に感じることは何ですか。当てはまるものを全て選択してください。

	不安に感じること
1. 自動運転車と非自動運転車の混在	
2. 自動運転システム等のエラーや誤作動	
3. 自動運転車事故時の刑事責任の所在	
4. 自動運転車事故時の民事責任の所在	
5. 運転者の運転技量の低下	
6. その他 (<input type="text"/>)	
7. 分からない	

7. 今後の交通安全対策に関するお考えについて、お尋ねします。

問 39. 今後の交通安全対策についてあなたのお考えをご記入ください。(自由記述)

